

平成25年度 社会福祉法人 鈴鹿聖十字会 事業報告書

I. はじめに

社会福祉法人鈴鹿聖十字会は、生命・自然・環境などのいのちのつながりの再構築による生命力の回復を基本理念に置き、総合的な福祉・医療サービスを総合的に提供する施設群を整備し、利用者一人ひとりの人間性、尊厳性、さらにはその方の生きる権利を最大に尊重する専門性に基づいた体制づくりを行うことで、地域住民の安心を生み出す福祉医療の拠点となることを目指し、平成25年度は以下のことを実施した。

II. 平成25年度実施事業

1. 社会福祉事業

(1) 第1種社会福祉事業

- ・特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家の経営
- ・特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家の経営
- ・障害者支援施設 菰野聖十字の家の経営
- ・ケアハウス 白百合ハイツの経営

(2) 第2種社会福祉事業

- ・認定こども園 聖マリアこども園の経営
- ・介護老人保健施設 聖十字ハイツの経営
- ・鈴鹿聖十字の家 老人居宅介護等事業の実施
- ・鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家 老人短期入所事業の実施
- ・菰野聖十字の家 障害福祉サービス短期入所事業の実施
- ・老人デイサービスセンター 聖十字保々在宅介護サービスセンターの経営
- ・老人介護支援センター 聖十字保々在宅介護サービスセンターの経営

2. 公益事業

- ・居宅介護支援事業
鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家・聖十字保々在宅介護サービスセンター
- ・菰野聖十字の家診療所の経営
- ・三重聖十字病院の経営

III. 事業の主な動き

1. 法人全体の主な動き

- ・利用者が真に必要とする安心・安全なサービス展開に務めた。そのために、理事長、各施設長による「施設長会議」を毎月開催し、各施設の課題や利用者の満足度向上、職員の教育方法、さらには稼働率アップのための具体的方法について、研修会を開催し、利用者に対する具体的なサービスの資質向上をはかった。
- ・新しい給与システムを導入し、これまでの年功序列的な給与評価から、実績や評価による昇給、さらにはキャリアパス制度に沿った職員が将来の展望を持って働き続けることができるような給与体系を実現するための体系を導入した。
- ・リスク管理体制を一層強化するため非常時対策の見直しを行った。なお、防火訓練及び消防用設備等の点検を法定通りに実施した。

2. 会議

当法人の適切な運営のために次の会議を開催した。

- (1) 理事会 年3回（5月、12月、3月）
- (2) 評議員会 年2回（5月、3月）

3. 教育・研究

- (1) 施設長等を対象に、マネジメント能力の向上を図るための研修会を毎月開催した。
- (2) 利用者に真に安心していただき安全な生活を送っていただくことを目的として、「法人リーダー研究会」を開催した。（年4回開催）
- (3) さらなる職員の資質向上をめざし、各施設別に専門研修に積極的に取り組んだ。

4. 監査

定款・諸規定等に従い以下のとおり監査を実施した。

- (1) 監事監査（5月）、税理士監査（5月）
- (2) ISO第6回サーベイランス（9月：三重聖十字病院）

5. 広報

機関紙およびインターネット等を活用して、情報公開を行うとともに、福祉・医療に関する理解と参加を促進する広報活動を行った。（菰野聖十字の家『そよ風』・鈴鹿聖十字の家『すばる』・聖十字ハイツ『もみの木』の発行、各施設ホームページなど）

6. 地域交流・ボランティアの受け入れ

利用者に安心、安定した生活を送っていただくため、地域の方々やボランティアの

方とともに支え合いの仕組みを構築することができるよう、以下のことを実施した。

- | | |
|------------------|----------|
| ①5月家族交流会 | (5月3日) |
| ②盆踊り | (7月21日) |
| ③メリノール女学院奉仕活動 | (10月・3月) |
| ④こども園・施設・地域合同運動会 | (10月13日) |
| ⑤茶会 | (3月23日) |
| ⑥ホーム喫茶 | (毎月1回) |

IV. 新規事業の展開

1. 四日市市に建設予定の「聖十字四日市老人福祉施設」(地域密着型特養 29 床・短期入所生活介護 10 床) の開設に向けて、諸準備及び建築業者の決定を行った。
2. 地域の方々が、緑豊かな環境の中で、多世代にわたる交流、つながりの場を目指して「地域子育て支援・こども安らぎの丘構想」の研究を開始した。
3. 地域の障害者の方々の、より豊かな活動の場の整備を目指して、新しい障害福祉サービス事業所、放課後等デイサービス事業所の設置に向けて、検討、諸準備を行った。

平成25年度 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家 事業報告書

I 事業内容

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 定員60名
居宅介護支援事業・介護予防支援事業

II. 事業内容全般

利用者の安全と安心の実現のために、「職員がよかれと思うことではなく、利用者の方が望まれるサービスを積極的に提供する」ことを目標に、特に個別サービスの向上に取り組み満足度の向上を図った。

III 具体的な事業実施内容

1. 稼働率の向上

(計画内容)

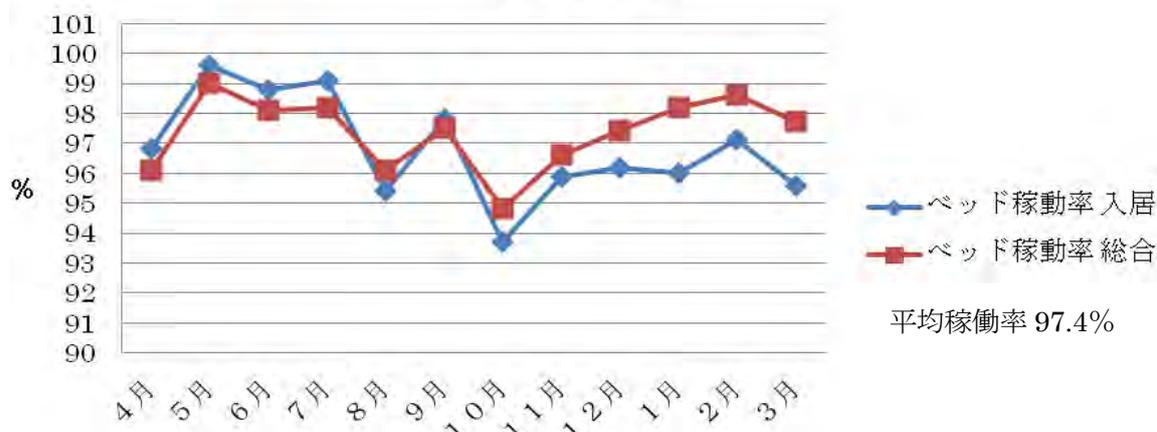
運営の安定化を図るため、稼働率目標を98.0%とし、ベッド管理を行う。

(実施状況)

ベッド稼働率状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	96.8	99.6	98.8	99.1	95.4	97.8	93.7	95.9	96.2	96.0	97.1	95.6
総合	96.1	99.0	98.1	98.2	96.1	97.5	94.8	96.6	97.4	98.2	98.6	97.7

ベッド稼働率



特養60床の通年稼働率は96.8%であったが、短期入所との総合で97.4%となった。施設で終末を迎えたいというニーズに対応し、日常の取り組みのなかで事故や感染症、脱

水症、誤嚥などの予防に努めたが、10月には熱発される入居者が出てしまい稼働率を下げた結果となってしまった。

2. 満足度向上に向けて

(計画内容)

利用者満足度の向上を図るため、職員一人ひとりが利用者一人ひとりの状況を把握し、それに沿ったサービスを提供することで、利用者満足度の向上を図る。利用者満足度アンケートの結果を4.1点(5点満点中)以上とする。

(実施状況)

9月にアンケート調査を実施した。ご家族様に対するアンケート項目全部の平均値は4.26となり、目標値を超える結果となったが、自由記述に「老朽化は仕方がないが、ベッドなどの施設備品はなんとかありませんか」とあるように施設内環境(居室・トイレ・浴室等)に関する項目はほとんど3点台という低さが目立った。今後の建て替え等も考慮すれば施設内部のリフォーム等には慎重にならざるを得ないが、備品に関しては少しずつ交換していきたい。

3. 事故の防止

(計画内容)

利用者の皆様に安全に生活していただくため、事故発生件数を月10件以下にし、ヒヤリハット報告件数を前年度より1割増加させる。

(実施状況)

事故件数は年間158件で月平均10件を上回ってしまった。また前年に比べ49件の増加となってしまった。一方、ヒヤリハット報告件数は年間25件で、前年度比34件減少となり、ともに目標値を達成することができなかった。今後は、事故・ヒヤリハット報告の改善対応策をよく検討し、それを職員間で共有して注意していくことで、事故の減少に努めていきたい。

4. サービス向上のため、職員の意欲と資質の向上に向けた取り組み

(計画内容)

「利用者に安心して生活していただくために、職員はどのように行動すべきか」をテーマにし、職員が自分で判断し、行動できる力を付けられる研修を実施する。

(実施状況)

コミュニケーション能力を高め、利用者のニーズを意識し、利用者に安心していただけるために行動できる能力を身に付ける内容の研修を、介護職員全員を対象に行う計画であったが、対応の基本から見直す必要があると判断し「初心に帰り、職員としての基本姿勢を見直す」という内容の施設内研修を実施した。

5. 施設内環境の適切な管理

(計画内容)

利用者に安全に安心して生活していただくため、施設内環境の管理を徹底的に行う。

(実施状況)

温度・湿度の値が基準値から外れることのないよう、毎日監視を実施した。

※基準値：夏季温度 27.5℃～28.5℃ 湿度 40%～60%

冬期温度 20.0℃（夜間 18.0℃）～23.0℃ 湿度 35%～50%

温度・湿度に変動がみられるときは、換気や冷暖房の調整を行って、安定した環境を維持する。館内の温度・湿度を毎日測定し、季節に合わせて窓の開閉による換気、冷暖房の調節を細かく行った。また、冬期は加湿器を使用し、湿度を保つように心がけた。

館内温度は夏季 28.5℃を上限に、冬期 20.0℃を下限とし、湿度は 40%以上を目安とするよう調整した。

6. 給食サービスの質向上

(計画内容)

安全で質の高い食事が常に提供できる体制を作る。

(実施状況)

仕入れ内容や調理方法を工夫し、嚥下障害のある方にも安全に召し上がっていただきやすい食事形態を提供するとともに、配膳してから召し上がっていただくまでに冷めることのないよう介助させていただき直前に温冷配膳車から取り出すことを徹底した。

7. 居宅介護支援事業の拡大

(計画内容)

居宅介護支援の利用者数を増加させる。請求人数は月平均 20 名以上、要介護認定訪問調査件数を 15 件以上とする。

(実施状況)

居宅介護支援事業利用者は予防支援も含め月平均 25 名、要介護認定訪問調査件数は月平均 18.2 件であり、どちらも目標をクリアすることができた。また利用者アンケートにおいても 23 件中 15 件の回答があり「100点満点中、何点だと思いますか？」という問いに 94.6 点という高い評価をいただいた。今後も利用者の立場に立った支援を実施していきたい。

8. 経費の節減

(計画内容)

運営の安定化を図るため、無駄な経費の節減を行う。

(実施状況)

毎月電気・ガス・ガソリン・消耗品の使用状況、金額を表にしてミーティングで点検した。また、施設内で電気や燃料等の無駄な使用がないように点検を行い、必要に応じて是正を行った。しかし猛暑の中、施設内の温度を適正に保つ必要等から使用料・使用料金ともにアップする結果となってしまった。平成26年度は消費税のアップもあり更に使用料金があがるおそれがあるため、しっかりと経費に関して毎月の監視をしていくことが次年度の課題である。

IV 地域社会との連携

1 ボランティアとの連携

団体及び個人の皆様方に、クラブ活動、施設内行事、外出行事および施設敷地内の草刈り、庭木剪定等のご協力をいただいた。

(1) ご協力いただいた団体・個人

みえ琴友会様・鈴鹿教会様・木田町老人会様・石薬師高校ボランティア部様
ロマンの会様・第2石薬師保育園様・(有)オフィスいとう様
千代崎中学校様・川北様・西村様・吉澤様

2 地域交流

(1) 大正琴の会（毎月1回）：みえ琴友会様

(2) 鈴鹿教会（毎月1回）

(3) 春の家族会（5月3日）：川北様、石薬師高校様

(4) 鈴鹿市ワークキャンプ《社会福祉協議会主催》（7月26日～27日）

(5) 木田町老人会園内清掃作業（9月11日）

(6) 秋の家族会（9月15日）：川北様、石薬師高校様、ロマンの会様

(7) みんなDE うきうき歌謡団来訪（6月19日）

(8) 千代崎中学校来訪（12月20日）

(9) 入居者と保育園児の交流会（3月6日） 第二石薬師保育園

(10) 実習及び福祉体験受入れ

鈴鹿医療科学大学、皇学館大学、山口東京理科大学、鈴鹿オフィスワーク
医療福祉専門学校、石薬師高校、鈴鹿市職員

V 資料

資料1：特養入居者の状況

① 月別入居者数

(平成25年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初人数	60	60	60	60	60	60	60	59	59	59	59	59	715
入居	1	0	1	0	1	1	4	1	0	3	1	1	14
退居	死亡	1	0	1	0	1	1	5	1	0	3	1	14
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② 年齢別男女入居者数

平成26年3月31日現在

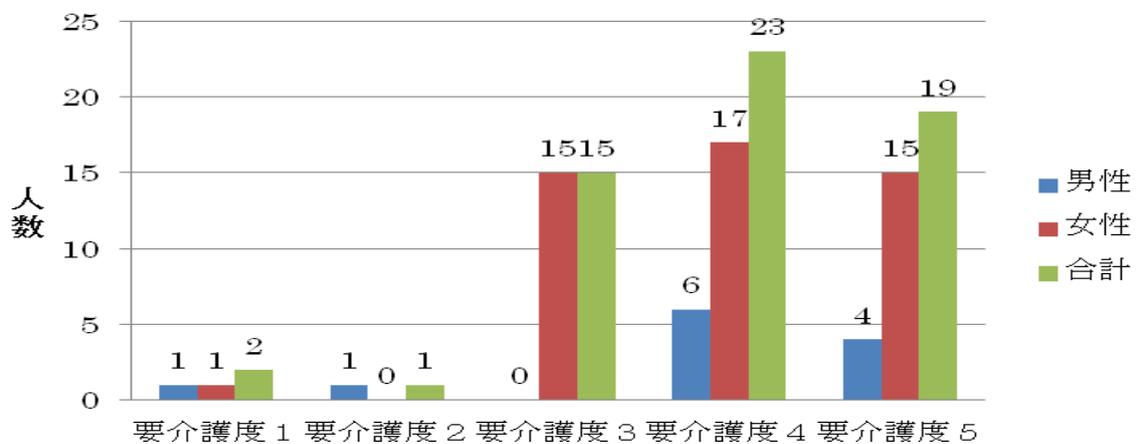
	64歳以下	65歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳	90歳～100歳	合計
男性	1	1	6	3	1	12
女性	1	3	5	19	20	48
合計	2	4	11	22	21	60

③ 要介護度別入居者数

平成26年3月31日現在

	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
男性	1	1	0	6	4	12
女性	1	0	15	17	15	48
合計	2	1	15	23	19	60

要介護度別入居者数

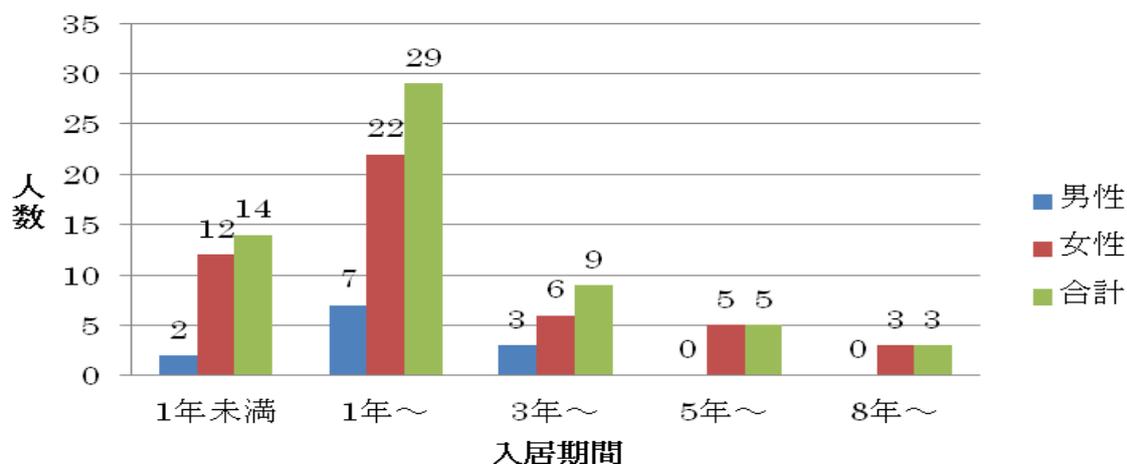


④ 入居期間の状況

平成26年3月31日現在

	1年未満	1年～	3年～	5年～	8年～	合計	平均期間
男性	2	7	3	0	0	12	1年1ヶ月
女性	12	22	6	5	3	48	2年9ヶ月
合計	14	29	9	5	3	60	2年5ヶ月

入居期間別入居者数



⑤保険者別入居者数

平成26年3月31日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
鈴鹿亀山地区広域連合	9	39	48
津市	0	4	4
四日市市	3	2	5
いなべ市	0	1	1
松阪市	0	0	0
菰野町	0	1	1
日野町 (滋賀県)	0	1	1
合 計	12	48	60

資料2：行事開催状況

- 5月 3日 家族会 (若葉の会)
- 5月13日 外出 (鈴鹿フラワーパーク)
- 7月 7日 七夕昼食会

- 7月29日 かき氷作り
- 8月20日 納涼会
- 9月15日 家族会（実りの会）
- 9月21日 ショッピング（鈴鹿ハンター）
- 10月28日 運動会
- 12月 9日 忘年会
- 12月24日 クリスマス会
- 12月28日 餅つき
- 1月12日 新年会
- 2月 3日 節分豆まき
- 3月 3日 ひな祭り
- 毎月1回 昼食バイキングまたは季節の行事食・お誕生会・喫茶

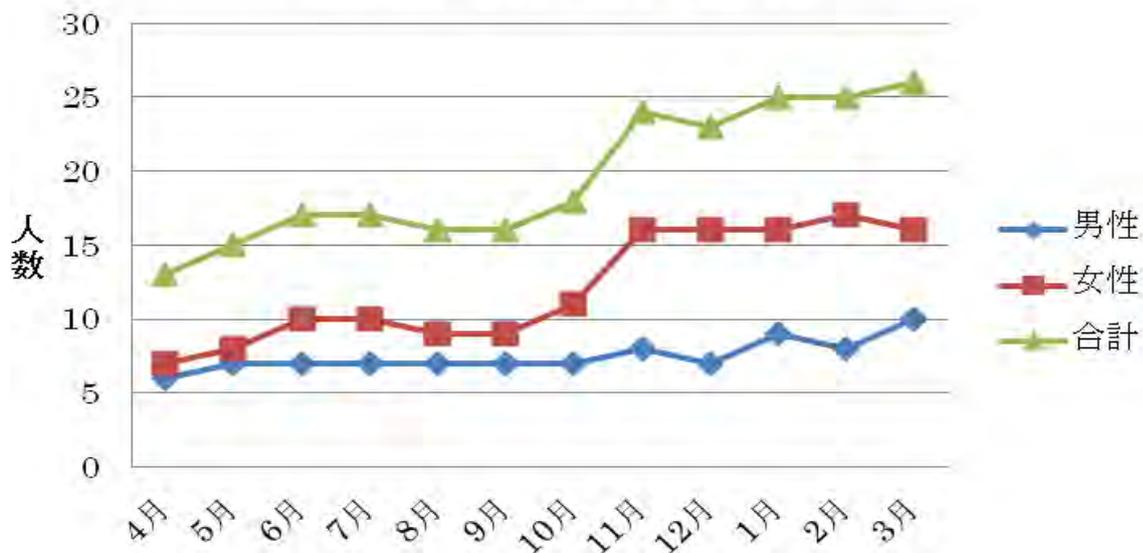
資料3：居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業の利用者数

(平成25年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	6	7	7	7	7	7	7	8	7	9	8	10	90
女	7	8	10	10	9	9	11	16	16	16	17	16	145
計	13	15	17	17	16	16	18	24	23	25	25	26	235

居宅介護支援 月別利用者数

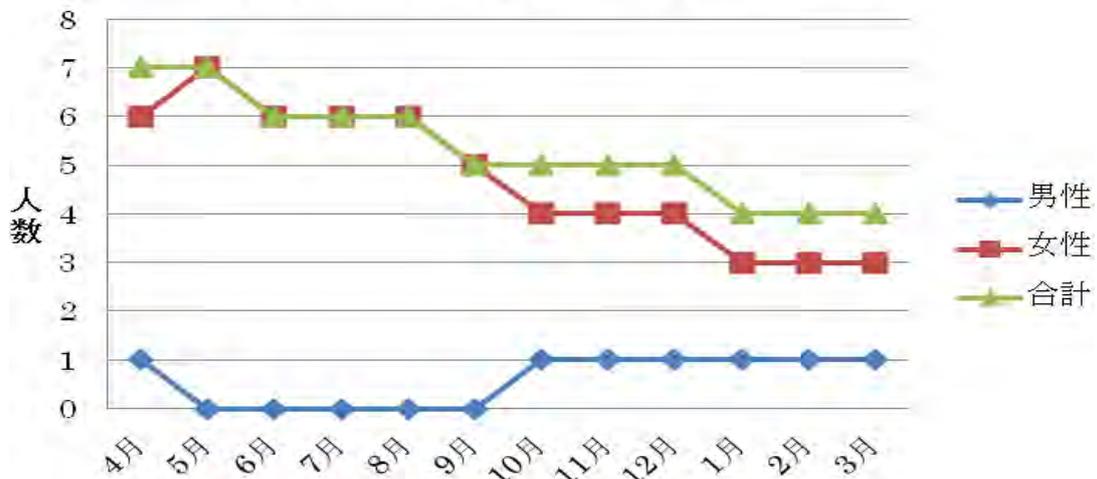


予防居宅介護支援事業の利用者数

(平成25年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	7
女	6	7	6	6	6	5	4	4	4	3	3	3	57
計	7	7	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4	64

介護予防居宅介護支援 月別利用者数



資料4：職員の専門性向上のための研修受講状況

① 施設外研修

- (1) 5月30日 職員1名
鈴亀地区居宅介護事業所・介護支援専門員連絡協議会 講演
内容：「診療報酬と介護報酬の今後の展望について」(鈴鹿市)
- (2) 6月12日 職員1名
三重県安全運転管理協議会 講習
内容：「安全運転管理者講習」(鈴鹿市)
- (3) 7月10、11、17日 各日職員1名
三重県 集団指導
内容：「平成25年度介護保険サービス事業者等集団指導」
- (4) 7月12日 職員1名
鈴亀地区老人福祉施設協会 施設職員研修会
内容：「バリデーションを活用した利用者援助について」(鈴鹿市)
- (5) 7月30日 職員1名

鈴亀地区居宅介護支援事業所、介護支援専門員連絡協議会 第1回研修会

内容：「鈴亀地区地域包括ケアシステムの構築を目指して」

- (6) 8月29日 職員1名
三重県 研修
内容：「指定更新手続説明会及び管理者研修」(津市)
- (7) 8月30日 職員1名
鈴亀地区広域連合 研修
「認定調査員現任者研修会」(津市)
- (8) 9月19日 職員1名
三重県鈴鹿保健所 研修
内容：「平成25年度給食施設管理者研修会」(津市)
- (9) 10月12日 職員1名
雲母書房 セミナー
内容：「シーティング基礎講座」(名古屋市)
- (10) 12月13日 職員1名
三重県 研修会
内容：「平成25年度介護予防従事者研修会」(津市)
- (11) 12月13日 職員1名
鈴亀地区老人福祉施設協会 第2回施設職員研修会
内容：「高齢者の窒息・誤嚥を防ぐために」(鈴鹿市)
- (12) 12月14日 職員1名
東海嚥下食研究会 講義
内容：「第19回東海嚥下食研究会」(名古屋市)
- (13) 2月13日 職員1名
鈴亀地区老人福祉施設協会 第3回施設職員研修会
内容：「介護施設職員の腰痛予防について」(鈴鹿市)

②施設内研修

- (1) 職員の行動規範について
「初心に帰り、職員としての基本姿勢を見直す」
 - 6月13日 職員8名
 - 6月17日 職員7名
 - 6月25日 職員7名
 - 7月4日 職員7名
 - 7月8日 職員7名

平成25年度
特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家
短期入所生活介護 事業報告書

I 事業内容

短期入所生活介護 2床（併設型短期入所生活介護）

II 事業内容全般

居宅において生活されている要介護または要支援状態の利用者に対し、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護やその他の日常生活上のお世話や機能訓練を行い、利用者の心身の維持ならびにご家族の身体的および精神的負担の軽減を図るように取り組んだ。

III 具体的な事業実施内容

1. 稼働率の向上

（計画内容）

運営の安定化を図るため、稼働率目標を特養と合わせ97.5%とし、ベッド管理を行う。

（実施状況）

緊急ケースへの積極的な対応と近隣の事業所へのPR活動や情報提供などを実施しながら安定した稼働率を目指した。短期単独で見ると、空床利用を含めて112.9%であったが、通常のショートベッドが2床しかないため、特養の入院に対する空床を埋める利用者の確保が難しく、入居との年間総合稼働率は97.4%となり目標を下回ってしまった。

2. 事故の防止

（計画内容）

事故発生件数を前年度以下にし、ヒヤリハット報告件数を前年度より1割増加させる。

（実施状況）

事故件数1件で前年度比15件減少とほとんど事故なく運営できた。ヒヤリハット報告は前年度10件より4件へと60%減少となった。次年度も同様に安心を提供できるよう細かな内容であっても事故報告書、ヒヤリハット報告書を記録し、職員間で周知することで、事故の減少に取り組んでいく。

3. 苦情について

(計画内容)

利用者・家族からの苦情に関して丁寧に対応し、苦情をとおして施設サービスの改善を図る。

(実施状況)

担当の介護支援専門員からの苦情が1件あった。内容は右手首の痣と脛の皮膚が擦れて薄皮がめくれているという内容だった。事故報告がなかったことから気付けなかったことを丁寧に謝罪し、今後気をつけて対応させていただくことや利用初日と最終日にはしっかり確認させていただくことをご報告しご理解をいただいた。また他の利用者の方にも同様の対応をしながら施設サービスの改善を図った。

VI 資料

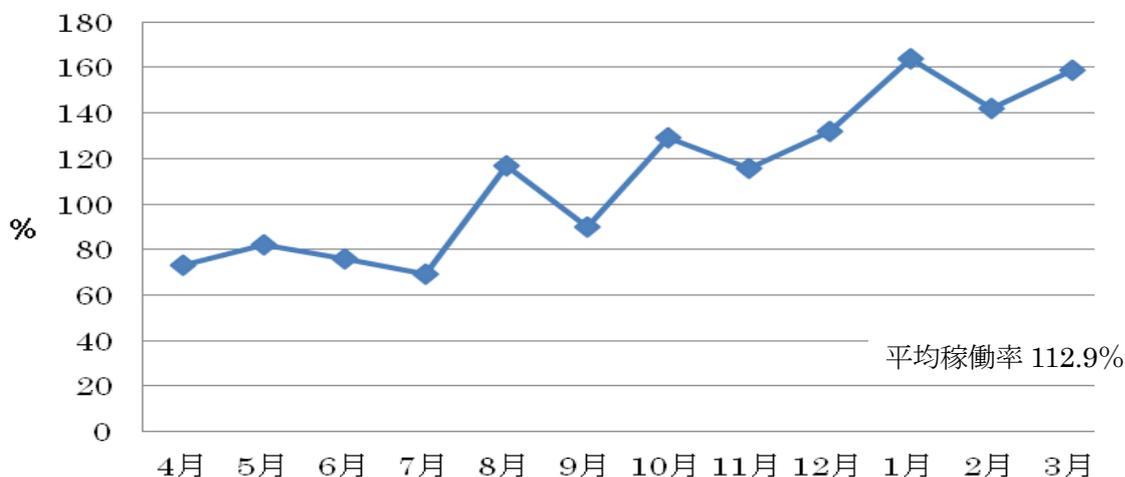
1 サービスの延べ利用人数(人)

(平成25年度)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
定員 (2床×日数)		60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
延べ 利用 人数	要支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	2	4	6	4	2	2	2	18	0	0	0	0	40
	2	19	23	5	0	2	2	0	2	4	2	2	6	67
	3	3	0	12	28	37	30	42	37	41	34	31	47	342
	4	13	16	23	11	32	13	13	13	37	66	47	46	330
	5	7	8	0	0	0	7	23	0	0	0	0	0	45
	合計	44	51	46	43	73	54	80	70	82	102	80	99	824
稼働率：%	73	82	76	69	117	90	129	116	132	164	142	159	112	

※定員を超えている月は、空床や入居者の入院による空きベッドを利用しているため。

短期入所 月別稼働率



平成25年度
特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家
訪問介護 事業報告書

I 事業内容

老人居宅介護等事業（訪問介護事業・介護予防訪問介護事業）

II 事業内容全般

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、利用者個別の生活状況に応じて必要な支援を行うことに努めた。

III 具体的な事業実施内容

1. 満足度向上に向けて

（計画内容）

利用者の方との信頼関係を大切にし、丁寧なケアを実施することで、利用者満足度調査の結果を、「4」以上（5点満点中）とする。

（実施状況）

9月にアンケート調査を実施した。アンケート項目全部の平均値は4.4となり、目標値を0.4ポイント上回った。

2. 稼働率の向上

（計画内容）

事業運営の安定化のため、月間の平均介護保険収入を、1,300,000円以上とする。

（実施状況）

今年度の介護保険収入は月平均で約1,152,570円となり、前年度より若干増加したものの目標値を上回る実績をあげることが出来なかった。1時間半以上の身体介護・生活援助が減り、介護予防が増加したこと及び午前のデイサービスの送りだし等の需要に対して、午前のヘルパーを募集するも応募がなく配置できなかったことが原因である。ただ収支のバランスもあるため、次年度は人員配置と収入のバランスをみながら増収を目指していきたい。

IV 資料

1 訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回） （平成25年度）

	30分 未満	30分 以上	1時間 以上	1時間 半以上	2時間 以上	2時間 半以上	4時間 以上	合計
身体介護	0	2636	701	2	0	0	0	3339
身体生活	0	0	416	5	0	0	0	421
生活援助	0	0	94	0	0	0	0	94
合 計	0	2636	1211	7	0	0	0	3854

2 介護予防訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）

	1時間 以上
予防Ⅰ	250
予防Ⅱ	348
予防Ⅲ	315
合 計	913

平成25年度
障害者支援施設 菰野聖十字の家
事業報告書

I. 事業内容

障害者支援施設（生活介護事業 定員75名、施設入所支援事業 定員60名）
障害者短期入所事業 : 5床
日中一時支援事業

II. 職員定数

看護職員、セラピストおよび生活支援員の配置数は、利用者に安心して、またその人らしい意欲的な生活の実現を目指すため人員配置体制加算（I）基準数の配置を維持した。

III. 運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向かい合い、その人とともに生き、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、施設を利用されている多様な障害をお持ちの方が、本当に安心して、その人らしい意欲的な生活の実現を目指すために、対人援助技術の向上や接遇向上、摂食・嚥下障害に関するケア強化、個別支援計画書に係る一連のマネジメント技術の向上も図り、利用者が安心かつ意欲的な生活を実現し満足感のある生活を送っていただけるように努めた。具体的な支援、サービスの提供内容については下記に記載。

IV. 具体的な事業計画およびその内容

1. 施設入所支援・生活介護事業(入居部門)

- (1) 職員間で積極的に現在のケアの内容を見直し、明確な改善計画の下、利用者に喜んでいただけるケアを実施し、利用者満足度のアップに取り組む。
 - ・主任・副主任は、各チームのリーダー・サブリーダーから、利用者や職員が抱える課題等に対して取組んでいる内容を内部監査形式で聞き取り調査を行う機会をつくり、施設サービスが適正に実施されるように指導・教育に努めた。
- (2) 利用者の方々が楽しく、健康で過ごしていただくための、より人間的な健康管理、医療・看護サービスを提供する。
 - ・上半期は、菰野聖十字の家診療所の医師との連携・協力を努め、可能なかぎり

医師から利用者および利用者家族への病状説明を実施するとともに、褥瘡や感染症対策、ウロバック等の取扱い等、看護処置や医療物品の管理体制の見直しを図った。また下半期は、聖十字病院や近隣の医療機関に協力を仰ぎ、外来受診が迅速・円滑に実施できる体制を構築して、利用者の健康管理に努めた。

- ・他医療機関に入院された入居者については、ご退院前だけでなく、必要に応じて定期的に看護職員・主任・副主任等が医療機関へ訪問し、可能な限り治療内容や経過・心身状況・看護方法の把握に努めて、退院後に施設生活も安心して生活できるように努めた。
- ・毎月の体重測定と随時の採血検査により、低栄養状態と判断される入居者に対しては、看護職員・管理栄養士・言語聴覚士等が随時カンファレンスを開催し、補助食を導入して栄養状態の改善を図る等、栄養マネジメント計画書の見直しを行い栄養・健康管理に努めた。
- ・摂食・嚥下障害、その他疾患等から経口摂取が困難となり、医療機関から経管栄養を勧められる可能性がある判断される入居者については、医師・看護師・サービス管理責任者等が利用者本人や御家族様と随時、面談を実施し、現在の病状や今後予見される身体状態やリスクについて説明を行うとともに、御家族様の意向・想いを傾聴させて頂き、利用者が少しでも安全に食事摂取、また生活が出来る環境を整備できるように努めた。
- ・褥瘡を患う入居者に対しては看護師の医療的処置だけでなく、エアーマットを使用しての除圧、補助食の提供など栄養マネジメントの見直しを図り、褥瘡の悪化防止および改善に努めた。また褥瘡の兆候がみられる入居者においては生活支援員と看護職員の連携強化により即時対応する体制を整備したことで今年度に新たに発症された方はみられなかった。

(3) 利用者の方々に、継続して食べる楽しみを感じていただくために、専門的な摂食・嚥下ケアを提供する。

- ・嚥下ケア委員会を中心に「摂食嚥下ケア・状況調査表」を作成。各入居者の食事の状態及び課題を職員間で共有し、窒息や誤嚥リスクの回避に繋げ、安心して楽しく食べて頂ける環境の構築を目指した。
- ・医師・看護職員・セラピスト・管理栄養士・生活支援員等の他職種間で円滑・適切にカンファレンスが開催できるように「ケアカンファレンス記録」を作成。摂食・嚥下ケアについて、「現在の支援内容（状況）および課題」・「カンファレンス（他職種協議・検討）による課題の整理」・「今後の支援（方向性・改善点等）」を整理して、全職員の周知・認識に努めた。
- ・年3回、外部から摂食嚥下障害の専門医師を招き、入居者の摂食状況等を基に、生活支援員・看護職員・セラピスト・管理栄養士で勉強会を実施。他職種間で活発な意見交換を経て、知識に獲得とともに生活支援員の意欲の高まりもみること

ができた。

(4) 食事をよりおいしく、安全に食べていただくために、さまざまな障害の状況にあった食事形態や、献立の多様化等の研究を行い、実際の献立に積極的に導入していく。

- ・ 6月・9月・11月に食事会を実施。入居者ミーティングにて意向を確認しメニューを検討。実施後の意見として満足いただく事が出来た。
- ・ 少人数制での食事会（夕食）を4月・5月・6月に実施。食事場所をリハビリルームに設置しお寿司などを食べて頂いた。普段あまり食べる事の無いメニューに対して喜びを感じて頂く事が出来、職員とのコミュニケーションやカラオケを併せて実施した。
- ・ 食事環境や介助の実施方法等について言語聴覚士が評価を実施。利用者個々の身体状態・ニーズに適した食事時の姿勢やテーブルの高さ等への見直しを開始した。
- ・ 入居者の食事に関する満足度を向上させる為に月に1度、担当者が集まり食事満足度向上委員会を開催。

<平成25年度の取り組みについて>

実施月	内容	
平成25年 4月	刻み食の魚料理について	刻み食の魚料理が食べづらいとの事で、魚料理に使用していた刻み食用の商品を再検討し変更
5月	マンナンご飯の分量の割合について	マンナンご飯の提供（低カロリーごはん）を始めて1年、食べて頂いている方の状況を確認し、カロリー33%⇒50%カットの割合に変更。
	ソフト食の盛り付けについて	魚・肉料理については、ソフト食の種類も増やし、また可能なかぎり、盛り付け（見栄え）も普通食と同じようにした。
9月	外部研修	平成25年度 給食施設管理者研修会に参加。長野県の減塩運動の取り組み方を始め、学んできた事を後日、調理室ミーティングにおいて伝達研修会を実施。
平成26年 1月	お正月の容器変更	普通食と刻み食の容器を、昨年度までしようしていたものから変更
2月	外部研修	津市で開催された「第6回呼吸ケアと誤嚥ケア学会」の中の嚥下食アワードに参加。今回は、作品発表は出来なかったものの、また次回への参加でできればと検討。

通年	サンドイッチ ムースについて	助六ムースに続いて、サンドイッチのムースも月に1度提供できるようにした（食パンのムースにあんやジャムを挟む）。ムース食の方にもサンドイッチを提供する事が出来た（施行により提供しない方もあり）
通年	リクエスト献立 について	平成25年度は、嗜好調査を活用する事を目的として、施設別の統計をとった嗜好調査から、人気のあるメニュー、普段出ないメニューなどのリクエストに応えた。

*季節の行事食、月一回の高齢の食事（おにぎり・助六・サンドイッチなど）も実施

〈行事食一覧〉 ★はリクエスト献立

★4月27日(土)	桜ご飯・すまし汁・刺身・蒸し物・たくあん漬け・やわらかおはぎ
★5月26日(日)	焼肉丼・若芽スープ・コーンドレサラダ・たくあん漬け・生キャラメルロール
★6月23日(日)	牛肉押し寿司といなり寿司・すまし汁・里芋とオクラの炊き合わせ・酢生姜・水ようかん
6月26日(水)	カレーライス（甘口・辛口/トッピング選択）とロビーにてホットケーキ
★7月27日(土)	しじみの味ご飯・いさきの塩焼き・冷奴・味噌汁・べったら漬け・やわらかおはぎ
★8月25日(日)	ご飯・ミニうどん・唐揚げ・べったら漬け・抹茶寒天
★9月21日(土)	えび裏巻きと押し寿司・すまし汁・南瓜のかにあんかけ・酢生姜・抹茶ロールケーキ
9月25日(水)	栗おこわ・秋刀魚の塩焼き・すまし汁・ブロッコリーとホタテの旨煮・野沢菜漬け・クレープ
★10月24日(木)	天井・すまし汁・酢の物・奈良漬・フルーツ入りゼリー
★11月16日(土)	黄飯・芋煮・人参シリシリ・奈良漬・和菓子
11月25日(月)	寄せ鍋
12月19日(水)	クリスマス会（唐揚げ・フライドポテト・さっぱりサラダ・ひのな漬け・りんご缶）
3月31日(月)	おやつ会（たこ焼き・フライドポテト・焼き鳥）

(5) 介護事故、食中毒・感染症発生等を予防し、利用者の方々の安全・安心を確保し、

適切なリスクマネジメントを実施する。

- ・事故、ヒヤリハットの予防、対応改善策の適正化に向けた取り組みとして、当施設独自に設置しているリスクマネジメント委員会の委員だけで検討するのではなく、当該チームスタッフ全員で検討し、チームリーダーが取りまとめる体制を実施。これにより一部の支援員だけで考えるのではなく、全体で検討する意識付けを持たせ再発防止に努めた。
- ・平成25年度は骨折事故が4件発生。これに関し、入居者の現状に即した介助方法の見直しや生活環境の危険予測・環境整備が行ったが、次年度は適切な介助方法と安心・安全に過ごして頂ける為の環境づくりへの意識付けを内部研修に取り入れ事故発生率の軽減に努めていけるように計画立案した。

(6) 新たな障害者スポーツ・創作活動・生産活動の創造および実践

- ・既存のクラブ活動のほかに、今年度も以前から行なっている車椅子ダンス、ナイトバー、誕生日会、映画上映会、おやつの会等を実施。レクリエーション委員会より以下のような日中活動を企画・実施し、利用者に楽しんで頂いた。

〈レクリエーション委員会企画による主な活動〉

- ・カラオケ大会
- ・書道
- ・絵画（絵手紙）
- ・花火大会
- ・クリスマス飾り作り
- ・新たな取り組みとして昼食前に嚥下体操を取り入れた。嚥下機能を高める事が期待できる物として楽しみながら実施して頂く事が出来ている。
- ・今年度も障害者スポーツとしてバレーボール（ゴロバレー）を定期的実施。主に上肢を使う運動である為、下肢運動が出来るサッカーも取り入れた。
- ・作業療法士による創作活動を月曜日と水曜日に実施。参加者も徐々に増えており、生活支援員も一緒に援助している。作成したものをロビーに展示したり、コースターやマフラーなど実用性のあるものを製作する事で高い意欲を持って参加して頂く事ができた。

(7) 施設利用者の直接の声を聞き、希望をかなえ、課題を解決していくことで、具体的な満足度向上を図る。

〈外出支援の充実〉

- ・昨年同様、多くの利用者からの声（要望）がある外出支援に力を入れ、日帰り旅行やショッピングなど年間行事に規定された外出支援以外にも、外食や買物はもちろんのこと、スポーツ観戦など、利用者からのご希望に基づいて様々な外出の支援を行い、利用者に楽しみや生きがい、また施設外に出る機会を多く持つこと

で社会交流機会や興味関心の持てる物・活動の幅を広げていただくよう努めた。

【平成25年度 外出支援実績（年間行事の日帰り旅行・ショッピングは除く）】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	6	3	6	3	7	12	5	11	8	1	1	6	69回
延べ利用者	8	3	6	3	7	13	6	14	8	1	1	6	76名

*平成22年度は、外出支援実施回数合計：68回 外出支援延べ利用者101名

*平成23年度は、外出支援実施回数合計：76回 外出支援延べ利用者118名

*平成24年度は、外出支援実施回数合計：82回 外出支援延べ利用者123名

- ・外出支援では無いが、弁当を購入し園庭でピクニックを実施、同室者の方で外注したものを自室で一緒に食べて交流を深めて頂く取り組みも実施

【平成25年度 外出支援先の一例】

分類	外出支援先 例
外食	すき家・マクドナルド・焼き肉店・お茶屋・コーヒー店・中華料理店・うなぎ・回転寿司・イタリア料理店・とんかつ店・喫茶店・和食店など
買い物	カメラ店・イオン尾平・しまむら・ユーストア・イオン菰野・イオン鈴鹿・ピアゴ・ツタヤ・イオン桑名・イオン四日市北など
観光	長島リゾート・市街地散策（ドライブ）・三重県立美術館・四日市市立博物館・四日市港ポートビル
スポーツ観戦	名古屋ドーム（プロ野球観戦）
趣味・娯楽	映画鑑賞（109シネマズ・氷川きよしコンサート（四日市文化会館）
その他	友人への面会・御墓参り・愛知県立名古屋養護学校（母校訪問）

*上記の記載は25年度実績の一例

<機能訓練活動の充実を図る>

全ての利用者が活動性のある生活および身体機能の維持・向上ができるように、関節可動域訓練や歩行訓練などの理学療法、創作・生産活動などの作業療法、摂食・嚥下、言語訓練等の言語療法等の訓練に努めた。

・理学療法

常勤理学療法士がリハビリテーションを必要とされる利用者のリハビリテーション計画を他職種間で協力し作成。活動性のある生活および身体機能の維持向上にむけて関節可動域訓練や歩行訓練等の理学療法を実施。

- ・作業療法
作業療法士が身体機能・ADLの維持等を目的とした個別機能訓練を実施。併せて娯楽・趣味活動の提供の一環として集団・個別活動での創作活動を実施。創作活動においては希望者も多数となり、利用者の創作活動への意欲向上が見て取れる。
- ・言語聴覚療法
食事をより安全においしく食べて頂く為に必要な嚥下機能の評価や姿勢・ポジションの評価を実施。管理栄養士、看護師と協力し食事形態の見直し評価も実施している。

(8) 利用者が地域交流や社会参加を進めていける体制の構築

多種多様な障害をお持ちの利用者が地域で安心して生活できるように、地域自立支援協議会の生活支援部会、身体障害者施設協議会のサービス管理責任者連絡協議会、QOL委員会等への参加を通じて各施設や事業所と連携・ネットワークづくりに努めた。

(9) 職員が利用者の尊厳、思いに寄り添い、ともに成長していく過程を感じられる教育訓練を実施し、ケアの質と専門性の向上を図る。

法人で実施する各種研修に加え、専門研修として介護看護職員に対し、以下の教育訓練を実施した。

＜平成25年度 介護看護入居部門 施設内専門研修＞

実施月	対象職員	内 容
10月 ～ 12月	生活支援員	摂食嚥下ケア～観察のポイントと基本的アプローチ ※講師 理学療法士・看護師
1月	生活支援員	アセスメント表と課題の整理票の作成について
1月	サブリーダー 以上	個別支援計画書作成における指導方法について
2月	生活支援員	課題の整理票と担当者会議の作成について
3月	生活支援員	個別支援計画書の作成について

＜平成25年度 介護看護入居部門 施設外研修＞

実施月	対象職員	内 容
5月	サービス管理責任者	近障協「サービス管理責任者連絡会」
6月	生活支援員	近畿地区身体障害者施設協議会「QOL委員会」

7・8月	サービス管理責任者	三重県相談支援従事者初任者研修
8月	生活支援員	近畿地区身体障害者施設協議会「QOL委員会」
10月	生活支援員	近畿地区身体障害者施設協議会「QOL委員会」
10～12月	生活支援員	介護福祉士養成施設 実習指導者講習会
12月	サービス管理責任者	近障協「サービス管理責任者連絡会」
2月	サービス管理責任者	近障協「サービス管理責任者連絡会」
2月	理学療法士・言語聴覚士・看護職員・管理栄養士	第5回呼吸ケアと誤嚥ケア学会
3月	看護職員	高齢者の浮腫ケア

(10) 適切な防災計画の策定と、地震、風水害等の緊急時に負傷者の救護やケアの提供が速やかに対応できる体制の構築をめざす。

障害者支援施設に併設している特別養護老人ホーム、ケアハウス等とともに年3回の防災訓練を実施した。なお、火災時の消化、避難訓練だけでなく、水害を想定した訓練や地震時の対応も行い、あらゆる災害にも適切かつ迅速な行動がとれるように平時より職員教育に努めた。

(11) 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保

日々の衛生管理の徹底、利用者の感染症発生の防止を強化するとともに、行政、関係機関とも連携をとり、空きベッドが生じない管理を徹底し、ベッド稼働率98%を維持した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率 (%)	98.8 %	98.1 %	97.9 %	98.4 %	99.6 %	98.0 %	95.8 %	97.5 %	98.7 %	97.6 %	99.1 %	96.9 %	98.0 %

2. 生活介護・日中一時支援事業（通所部門）

1. 事業概要

1) 営業日および利用時間

月曜日～日曜日：午前9時～午後5時

2) 利用定員 15名

3) 利用対象者

現在お住まいの市町村で、自立支援法に基づく支給決定を受けた方を対象とします。

2. 事業の目的と運営の方針

事業の目的	この事業は、自立支援法下での生活介護事業であり、介護および支援の必要な利用者がそれぞれおかれている環境等に応じて、利用者自身の選択に基づく保健・福祉サービスを効果的に提供することを目的とします。
施設運営の方針	当施設にあつては、利用者に最も有利なサービスを提供することにより利用者がその生活において国民としての権利をいささかも制限されず、尊厳をもって安心して生活していただけるよう配慮し、運営するものとします。

3. 活動報告

<生活介護事業>

25年度は、利用者ひとりひとりに合わせた支援を提供できるよう、職員個々のコミュニケーション能力を生かし、利用者との信頼関係の構築に努めるとともに、ニーズを細かく把握し個別支援計画を作成、利用者の方が満足の出来るサービスの提供に努めた。

また、利用者記録システムを使用し、利用者の記録管理を行いながら、日々の変化を細かく把握し、支援計画に反映されるよう努めた。

日中活動については、社会参加を目的とした外出をはじめ、文化的活動、レクリエーション、創作活動等を中心に取り組んできた。特に創作活動については、今まで取り組んでいたもの以外での活動も取り入れることができるよう努めた。

今後、生産活動についても環境面、設備面等さまざまな面から、どのように展開させていくのかなどを考えたうえで、形にしていきたい。

リスクマネジメントについては、利用者の安全を確保すると言う事だけにとどまらず、起きてしまったリスクをどのように是正していくのか、どのように予測、予防出来るかなどを全職員で研修を通じ学ぶことで、日々の支援に反映させてきた。また、

通所部門のみならず障害者支援施設全体でも、虐待防止に向け施設内研修だけでなく、外部研修へ参加するなど職員への教育にも努めた。

<日中一時支援事業>

日中一時支援事業については、利用される児童、保護者の方に対し、安全・安心して利用していただけるようサービスの提供に努めてきた。利用される児童の方には、出来るだけリラックスできるようなスペースを確保するとともに、保護者の方には、希望があれば児童の方と一緒に利用していただくことで、事業所の雰囲気慣れていただいた。また、職員もその場で保護者から直接お話しを聞きながら対応できるよう配慮してきた。

生活介護事業と日中一時支援事業とでは、サービス内容にできるだけ差が出ないように心掛けるとともに、利用されている方全員でレクリエーション等をおこなったり、外出行事に参加するなど工夫をし、皆で楽しめるよう環境作りにも努めてきた。

事業所としては、特別支援学校の先生との情報の交換、学校見学や施設見学をお互いにおこなうなど連携をとるよう努めてきた。

今後は、現在利用されている利用者の方に今以上に満足していただけるよう、ひとりひとりへの対応を見直していくとともに、保護者の方にも「安心して児童を預けられる事業所」と認識していただけるよう努めていきたい。

4. 年間行事

月	主な行事	月	主な行事
4月	お花見カフェ	10月	個人外出(鉄道館・ショッピング)
5月	家族交流会	11月	映画鑑賞
6月	ショッピング	12月	クリスマス会
7月	七夕祭り(飾り作り)	1月	新年会・おもちつき
8月	納涼会	2月	お茶会、バレンタインデコアクセ作り
9月	個人外出(鉄道館・ショッピング)	3月	手すき和紙はがき作り

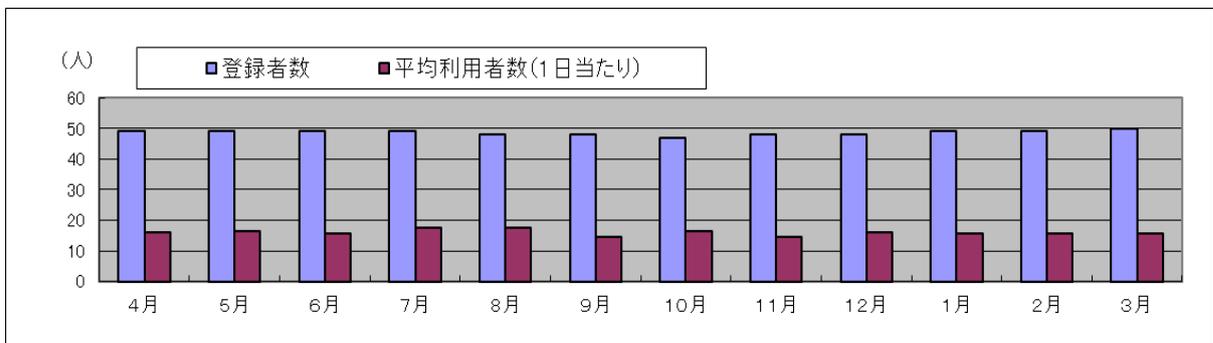
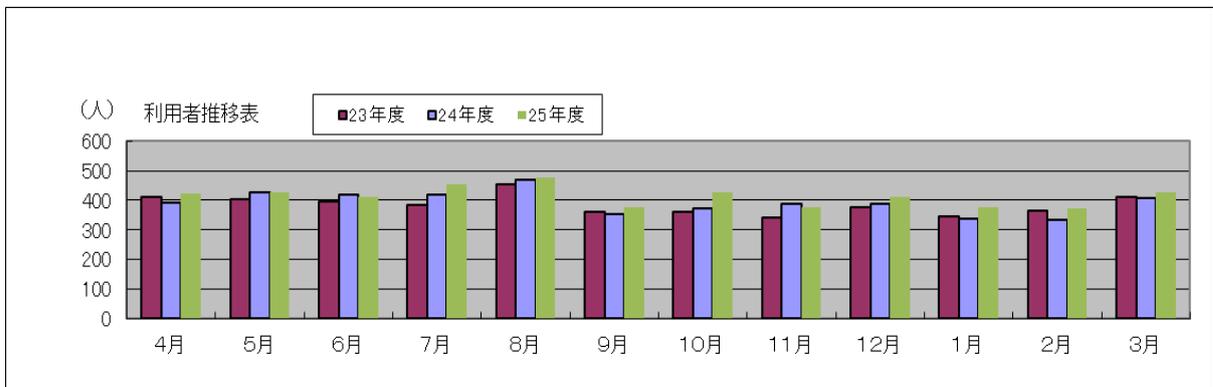
外出行事やレクリエーションなどについては、利用者からの要望を取り入れながら、定期的に計画を立て、社会参加への機会を提供することに努めた。

5. 月別利用者数

通所生活介護事業・日中一時支援事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ人数(者)	377	393	378	400	394	341	395	346	367	347	340	395	373.8
延べ人数(児)	45	33	34	53	84	35	33	31	46	30	31	32	40.6
合計	422	426	412	453	478	376	428	377	413	377	371	427	416.2
平均(1日)	15.7	15.8	16.1	16.1	17.3	14.1	14.5	15	15.5	14.7	14	15.7	15.9



3. 短期入所事業 (入居部門)

I. 事業内容

障害者短期入所事業 定員 5名

II. 施設方針および事業目標

利用者が自らの意志で、その方が望む、その方らしい在宅での生活を可能な限り

維持していくために、医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用させていただくことにより、心身機能の向上と、安心できる地域での生活を目指し、具体的な支援、サービスの提供を明確なプランを立て、ご家族や地域の様々な社会資源と連携し、より豊かな在宅での生活を実現していくよう努めた。

(1) 利用者に安心・満足していただけるケアの提供

- ・短期入所事業においても個別支援計画書を作成し、この計画書に基づくケア内容を各チームが責任をもって実施することで利用者に安心して利用していただけるように努めた。
- ・利用者・御家族様から施設サービスに対するご意見・思いを可能な限り確認し、チャンスカードや苦情通知書を作成して改善に努めた。
- ・女性利用者は、個室（ダリア）以外は面積（居住スペース）の狭い4人部屋しか利用ができない体制であったが、新館の2人部屋をショート専用居室へ変更し、居住スペースが広く、またプライバシーにも配慮できる療養環境とした。

(2) 在宅での生活状況に合わせたサービスの提供

- ・相談援助に従事している生活支援員が可能な限り自宅に訪問をさせていただき、自宅での生活状況を確認して、ご家庭に近い居住環境と生活状況に合わせた個別サービスが提供できるように努めた。
- ・また相談支援事業所を利用されておられる方については、相談支援専門員に随時ショートステイ利用状況を報告するとともに、サービス担当者会議にも積極的に参加した。

(3) 職員のショートステイや通所（生活介護）等の在宅事業に関する理解の向上

可能なかぎり、利用者や御家族の意向、また自宅での生活状況等の周知を図り、施設入所支援とは異なる視点を持って施設サービスの提供を図ることが必要であることを認識できるように努めた。

(4) ご家族や他事業所との連携、連絡・相談体制の充実

ご家族様だけでなく、相談支援事業所等との連携や情報共有に努め、利用者が在宅でより良いご生活が営めるように必要な助言や支援に努めた。

(5) 通所との情報共有と連携、サービス内容の統一化

通所とショートステイ併用利用者については、実施しているサービスや対応内容、利用者や御家族の意向やリスク管理、その他共通する支援・サービス、ご利用中の様子等で気がついたことや反省等について次回の利用に活かすことができるように入居部門と通所部門での情報共有の強化を行った。

(6) 日中活動（文化・娯楽・創作・生産活動等）の充実

短期入所利用者の方々にもご意向に応じた日中活動が提供できるように、利用者本人及びご家族からの意向・要望、趣味や関心の事項を聞きとり、これらを反映させた個別支援計画書を少なくとも6か月に1度作成して可能なかぎり個別にも文化・教養・娯楽活動の実施に努めた。

(7) 満足いただけるサービスの提供を目指して

利用者により良いサービスを提供するため、より安定した経営・運営を図る必要性があることから、年間平均稼働率97%以上を目標値としていたが、今年度は目標値を上回る年間平均稼働率97.9%を達成することができた。

<月別短期入所利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用人数	151	156	146	148	161	158	154	169	171	152	77	149
平均利用者数 (1日)	5.0	5.2	5.2	4.9	5.2	5.3	5.0	5.2	5.5	4.8	2.6	4.8

平成25年度
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家
事業報告書

I. 事業内容

1. 介護老人福祉施設事業（定員90名）
2. 居宅介護支援事業

II. 運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向かい合い、その人とともに生きていく」という目標のもと、「心地よい生活環境」などを実現するための具体的な取り組みを行うために、記録システムの内容を数度にわたり見直しをかけて取り組んできた。また最期までその人らしい人生を過ごしていただくため、外部医療機関等と緊密に連携をとりながら継続的な医療・福祉サービスを提供し、終末期については利用者の立場で真摯にご家族と対話をもちながら、本当にその方が望む最期を迎えていただける援助を実践することでご家族からはお礼の言葉もたくさんいただき、一定の効果はでたものと考えている。

また、サービスの質、職員の専門性の向上を目的とする施設内の教育訓練を毎月1回実施していくとともに施設外研修にも積極的に参加し、OJTや個人面談を通じて職員のモチベーションとスキルのアップを目指してきた。

III. 具体的な事業報告

1. 利用者満足度のアップに取り組むために、適切なデータ分析で実効性の高い情報共有を行った。具体的には以下の通りである。
 - (1) 平成23年度（第9回）のアンケート結果に対する改善計画を確実に実施し、環境および具体的なサービス内容の改善を進めた。
 - (2) 多職種でリアルタイムに入居者様の情報共有をしながら、より入居者様の利益となるケアを提供できる体制を強化するため、記録システムの内容を見直してより良い形を模索した。
 - (3) チャンスカードの使い方を再検討し、職員目線ではなく、入居者様・ご家族様の意向を広く拾える形で実施した。
2. 利用者に安心して、また楽しんで生活していただけるケアを提供するため、入居者様とご家族様の橋渡し役としてしっかりコミュニケーションをとりながら悔いのない終末期を迎えていただくための援助に取り組んだが、11月にコミュニケーションに関して1件の苦情をいただく結果となった。
 - (1) 施設サービス計画書に基づくケアを実現するため、介護支援専門員および生活

相談員をはじめとする関連職種が記録システムを活用しながら、利用者一人一人の状況の把握に努めた。

- (2) 「認知症委員」の活動については入居者対応の時間が削られることのないように一定の月を隔てて実施し、認知症の特性や対応方法を学び、それを議事録で内容を全職員で共有する体制とした。
 - (3) 施設での看取りを望まれる場合が多いため、入居者様とご家族の間に悔いが残らないようにコミュニケーションを確実にしながら終末期の援助に取り組んだつもりであったが、コミュニケーションに関して1件苦情をいただくことになってしまった。
3. 職員の業務に対するモチベーションを上げるとともに、職員一人ひとりが意見の出しやすい職場（土壌）作りを継続するよう努めた。
- (1) 法人リーダー研修に総主任が参加し、効果的なOJTが可能となるような協議を定期的実施した。
 - (2) 毎月のレポートの中で施設に対する意見をあげてもらい、その内容をリーダーミーティングで協議しを行い解決し、また口頭で伝えたりし、実施可能なことはすぐに実施し、実施できないことも理由をはっきりとさせてリーダーミーティング議事録で全職員に分かる形でフィードバックした。
4. 利用者に安心して生活していただくための事故防止・感染症の防止・食中毒の防止に努めたが、インフルエンザは発生してしまった。
- (1) 毎月開催しているリスクマネジメント委員会で内容を吟味し、その再発防止策に関して部署を超えた意見交換を行い、各現場で事故防止に取り組んだ。
 - (2) 感染性胃腸炎は防止できたが、インフルエンザについては罹患の拡大がみられた。初動で通院や隔離をさせていただいたものの、うつるスピードが非常に速く、結果罹患が広がってしまった。その反省を踏まえてマスク着用、加湿器、使い捨ての手袋、エプロン、アルコール消毒液の完備などを見直した。
5. 内容を吟味した教育訓練をすることで、利用者の方々に安心していただけるケアの質と専門性の向上を図った。
- また外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間20回（本館・新館合計）以上参加することができた。
- （具体的内容は「VI. 職員研修の実施状況 1. 内部研修、2. 外部研修」参照）
6. 文化・教養活動の充実を図るため、職員が実施している朗読クラブ、書道クラブ、映画放映をほぼ毎月、継続開催するとともに歌や民話等のボランティアや子ども園の園児との交流を実施した。子ども園との交流は入居者様がとても楽しみにしており、計画通り4回実施することができた。入居者様の笑顔が多く見られる取り組

みなので次年度も継続する。昨年度は入浴委員が企画する季節入浴も好評であったが、アンケートをとり1回のみ開催で中止とした。

7. 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保に努めた。
- (1) 生活相談員業務のできる職員の養成に取り組むとともに、加算等の算定も十分考慮した管理を実施した。次年度はさらに実践的な内容で継続する。
 - (2) 行政、関係機関とも連携をとり、空きベッドが生じない管理に努めた。感染症の影響があったものの、ベッド稼働率 99.19% (入居・短期入所合計) を確保することができた。

IV. 地域との交流

地域交流事業として以下のような行事を企画、実行した。

1. 入居者・家族交流会 (5月・9月: 家族との交流 9月は台風にて中止)
2. 盆踊り大会 (7月: 地域住民・子供会・婦人会との交流)
3. 交流運動会 (10月: 保育園児・地域住民・老人クラブとの交流)
4. 認定子供園との交流会 (5、7、10、12月: 聖マリア認定子供園児との交流)
5. その他協力校等との連携により、以下のボランティア体験、実習等を実施した。
 - (1) 三重介護福祉専門学校 (現場施設実習)
 - (2) メリノール女学院高等学校 (ボランティア体験)
 - (3) ユマニテク教育支援センター (公共職業訓練介護職場実習)
 - (4) 聖十字看護専門学校 (老年看護学実習)

V. 年間行事

4月	桜の花見
5月	家族交流会、子供園との交流会・季節入浴
6月	お楽しみ食事会・防災訓練
7月	七夕・盆踊り・かき氷 (毎週火曜)
8月	お楽しみ食事会・子供園との交流会・かき氷 (毎週火曜)
9月	敬老の日家族交流会 (中止)・かき氷 (毎週火曜)
10月	運動会・コスモス見学・子供園との交流会・メリノールボランティア
11月	お楽しみ食事会・防災訓練
12月	クリスマスイヴ礼拝・クリスマス会
1月	入居者新年会・餅つき (こども園のみ開催)
2月	節分 (豆まき・中止)・お楽しみ食事会
3月	初釜・防災訓練・メリノールボランティア

その他、施設内・外の行事を多数実施した。

VI. 職員研修の実施状況

1. 内部研修

(1) 新人職員研修

対象者：25年度新人職員

講師：理事長・事務局長・施設長・特養、障害支援各主任その他

実施月：4月、12月

(2) 専門職研修

対象者：介護・看護職員

講師：施設長・主任・生活相談員・栄養士・リスクマネジメント委員・排泄ケア委員等

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 4月 | 法人新人職員研修
高齢者虐待防止について |
| 5月 | 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について |
| 6月 | 「感染症の発生及び食中毒」の予防及びまん延の防止に関して |
| 7月 | ターミナルケア・ターミナルケア実施にあたっての精神的ケアについて |
| 8月 | 倫理及び法令遵守について |
| 9月 | 利用者等のプライバシーの保護の取組みについて |
| 10月 | 医療に関する知識・褥瘡予防のケアについて |
| 11月 | 24時間連絡体制について |
| 12月 | 身体的拘束等の排除のための取組みに関して |
| 1月 | 認知症に関する知識及び認知症ケアに関して |
| 2月 | 看取りについて |
| 3月 | 非常災害時の対応について |

2. 外部研修

外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間20回（本館・新館合計）以上参加することができた。

(1) 三重県社会福祉協議会主催：社会福祉施設職員研修

- ① 新任職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月6、7月）
- ② 中堅職員研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（実施月8、9月）
- ③ 指導的職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月10、11月）
- ④ 福祉サービスの苦情解決研修会（実施月10月）

(2) 三重県社会福祉協議会主催：スキルアップ研修会等

実施月：5、8、10月

(3) 北勢地区老施協特別研修

実施月：3月

Ⅶ. 資料

(1) 月別入居者数 (平成25年度)

①特別養護老人ホーム

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月初人数	86	84	85	90	88	86	86	86	83	87	88	85	-
	入居	1	4	3	2	0	3	3	3	3	2	1	3	28
退 所	死亡	1	2	4	0	3	2	3	1	2	2	4	1	25
	入院	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	家庭復帰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 年齢別男女入居者数

平成26年3月31日現在

	64歳以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 99歳	100歳 以上	合計
男性	1	2	4	9	1	0	17
女性	0	1	9	25	34	2	71
合計	1	3	13	34	35	2	88

(3) 男女別要介護度

平成26年3月31日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	2	5	3	7	17
女性	2	2	10	22	35	71
合計	2	4	15	25	42	88

(4) 入居期間の状況

平成26年3月31日現在

	1年未満	1年～	5年～	10年～	15年～	合計
男性	3	10	1	1	2	17
女性	23	35	10	0	3	71
合計	26	45	11	1	5	88

(7) 保険者別入居者数

平成 26 年 3 月 31 日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
菰野町	9	34	43
四日市市	6	30	36
鈴鹿亀山	1	1	2
名古屋市	1	1	2
いなべ市	0	1	1
志摩市	0	1	1
東員町	0	1	1
川越町	0	1	1
瀬戸市	0	1	1
合 計	17	71	88

VIII. 居宅介護支援事業

利用者、家族、他事業所との連携を強化し、利用者の望む在宅生活を支援することを目的として事業を実施した。

- (1) 併設の三重聖十字病院と緊密に連携を持ち、退院して再入院されるまで在宅でのターミナルケア支援を実施するなど強化に努めた。
- (2) 他の医療機関や関係機関・事業所との連携を強化し、効果的な在宅介護・看護が提供できる体制を構築しながら、新規獲得に力をいれた。
- (3) 医療ニーズの高い方にも対応できるようなスキルアップ研修へ積極的に参加した。

要介護・要支援区分別 居宅介護支援実績推移表（平成 26 年度）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	4	4	3	3	3	3	6	5	5	4	4	3
要支援2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3
要支援 合計	6	5	4	4	4	4	8	7	7	6	6	6
要介護1	8	9	9	8	12	12	15	16	17	15	15	14
要介護2	13	13	12	21	16	15	15	17	16	16	16	17
要介護3	13	11	12	10	10	9	10	8	8	6	5	6
要介護4	9	11	5	7	5	5	4	5	5	7	10	8
要介護5	2	1	3	2	2	2	3	2	1	0	0	0
要介護 合計	45	45	41	48	45	43	47	48	47	44	46	45
総合計	51	50	45	52	49	47	55	55	54	50	52	51

平成25年度
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家
短期入所生活介護 事業報告書

I. 事業内容

- ・短期入所生活介護
- ・介護予防短期入所生活介護 7床（併設型短期入所生活介護）

II. 運営の基本方針および事業目標

利用者の苦しみや困難を共有・共感し、寄り添い、安心して生活していただける環境や体制を具体的に作り出し、その方の望む生活を維持するために、通常のサービスやリハビリテーションに加え、お話の傾聴、疼痛緩和、ご家族への連絡調整等を状況に合わせて実施し、最期までその人らしい人生を過ごしていただくための援助に努めた。また、利用者の在宅での生活を可能な限り維持していくために、医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用させていただくことにより、心身機能の向上と、安心できる地域での生活を目指した。さらに認知症の方への個別ケアやリハビリテーション、レクリエーションの実施等、より専門的なサービスの提供のための研究をさらに進めていくとともに、実際の介護サービスの提供の場においては、現在のチームケア体制を中心に、できる限り在宅での生活の内容や環境を施設内で作りながら、利用者に寄り添い、より安心していただける関係を作り出すようにした。

また、その他のサービス提供の面では介護老人福祉施設の本事業に準じて、区別なく提供した。

III. 具体的な事業報告およびその内容

1. 在宅での生活状況に合わせた個別サービスの提供

事前面接訪問・居宅ケアプラン等による情報の収集により利用者一人ひとりの障害の状況や在宅での生活状況（ベッドの位置や介護用品等）に合わせて、ご家庭での生活を維持継続していく形を基本として、施設での生活環境を作り出した。また、趣味や教養娯楽活動についても、施設にある既存の活動内容だけでなく、ご自宅で実施されていた趣味的活動を可能な限り施設でも続けていただけるよう支援した。さらに、食事、入浴、排泄等介護サービス内容についても、利用者ご本人の意思や嗜好を十分に把握し、希望に沿ったサービスを提供した。

初回利用の方及び継続的に当施設の短期入所生活介護を利用されている方のサービス担当者会議には積極的に参加し、他事業所の意見、ご家族の現在の気持ち等を聞き、モニタリングを行うことにより、サービスの向上を目指した。

2. 地域との連携

菰野町社会福祉協議会にて行われる、事業者会議及び地域ケア会議に毎月参加した。加えて、町内福祉施設医療従事者研修会にも毎回参加することにより近隣福祉施設との交流をはかり、地域の福祉事情・医療事情を敏感に感じることができた。地域福祉の現状や課題を知ることで、在宅におられる利用者へのサービス提供や利用者・家族との相談をスムーズに進めることができた。また、近隣福祉施設との交流を図ることで、在宅の福祉サービス困難者を地域で助けあい、援助させていただくことができた。

3. ご家族様との連携

ケアマネジャーやご家族様に定期的な訪問や電話を行い、要望や注意事項などを伺った。それにより、個別のサービス提供の満足度向上につなげることができた。希望があれば理学療法士による専門的なりハビリも提供した。

利用者様の重度化に伴い増加している、ショートステイ中の体調不良やショートステイ中の死亡に対応できるようご家族様とのコミュニケーションを密にした。具体的には利用者様やご家族様の意向を確実に把握し、また主治医の往診、死亡診断が出来る体勢をとった。

4. 送迎および家族連絡体制の強化

送迎専門職員を配置することにより、職員の負担を大幅に軽減し、その分を利用者へのサービス向上にむけることができた。また、朝食時からの受け入れ、夕食後の退所など様々な入退所の要望にお応えした。(ご家族送迎の方を含む)

本入居の方同様、記録システムを用いていく予定であったが、システム上、短期入所生活介護に利用することは困難であった。(入退所の数が多く、変更も多い為) そのため引き続き「サービス提供報告書」「施設看護介護経過記録」を用いてご家族様への連絡、報告、情報提供を行った。また、重要な事項に関しては、お電話及び送迎時に口頭で説明を行った。

5. 持ち物の紛失・忘れ物の防止

「利用者所有物管理書」の使用方法を検討し、紛失・忘れ物を防止した。

退所チェック実施後に使用する物品(口腔ケアのセット、入浴後の衣類など)の忘れ物が多く見受けられていた。そのため、チェックをしたが鞆に入れていない物に関しては赤丸等でチェックをし、最終確認する職員はチェックがしてある物を鞆に入れてから送迎するようにした。これにより忘れ物は減少した。

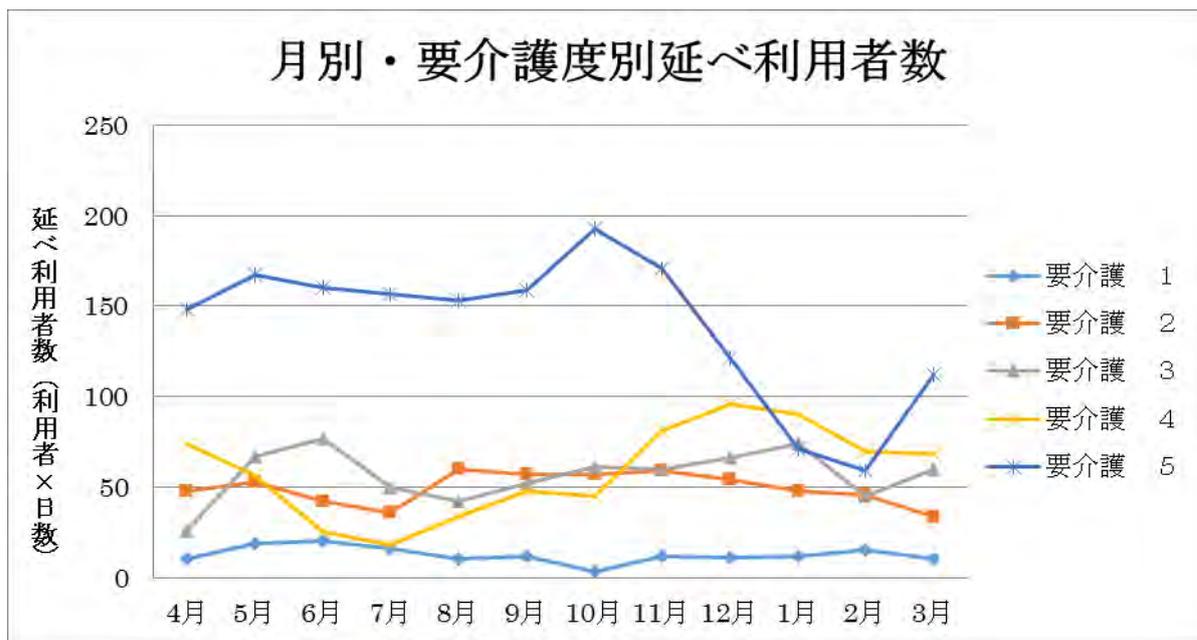
6. その他

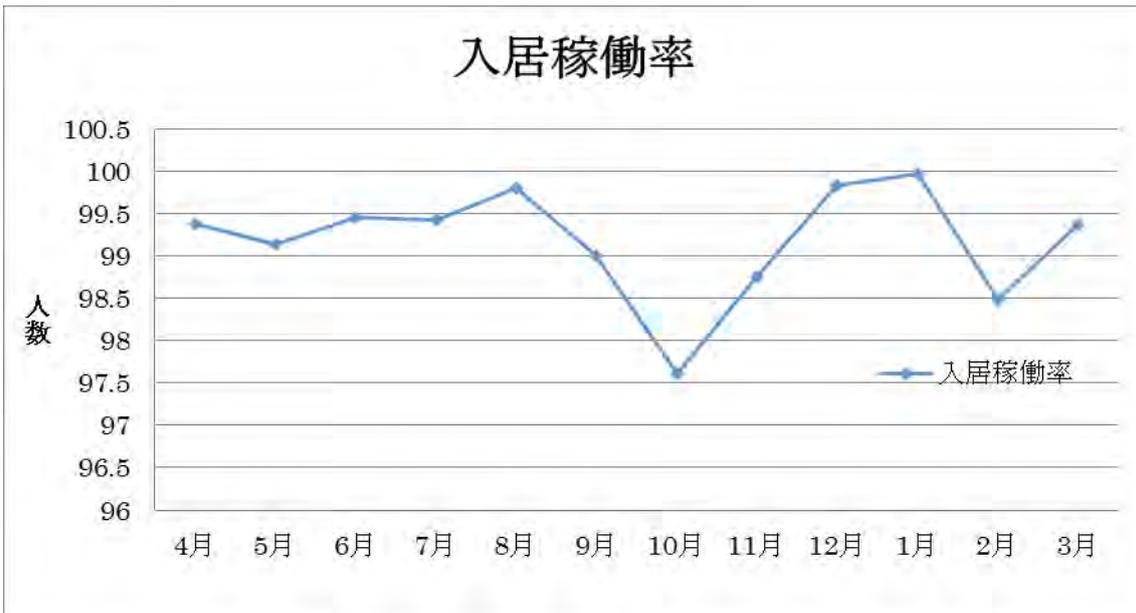
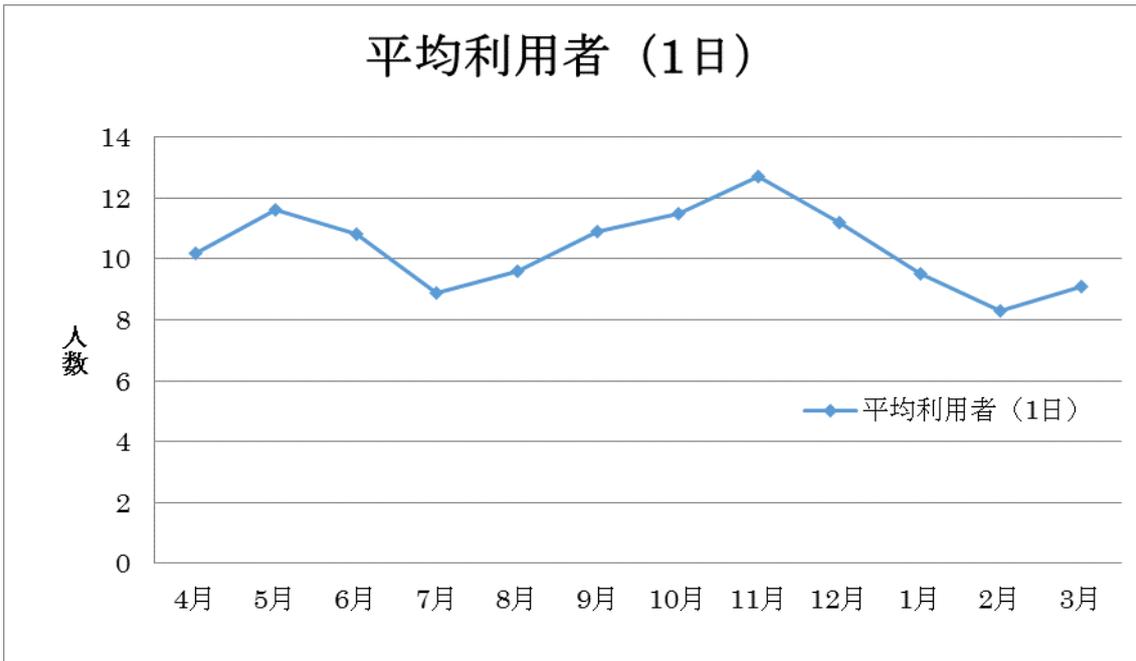
その他は介護老人福祉施設の併設事業であるため、本事業に準じている。

IV. 月別利用実績

月別短期入所生活介護利用人数(延べ)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1	10	19	20	16	10	12	3	12	11	12	15	10	150
要介護 2	48	53	42	36	60	57	57	59	54	48	46	34	594
要介護 3	26	67	77	50	42	52	61	60	66	74	45	60	680
要介護 4	74	56	25	18	34	48	45	81	96	90	70	68	705
要介護 5	148	167	160	157	153	159	193	171	121	71	59	112	1671
合計	306	362	324	277	299	328	359	383	348	295	235	284	3800
平均利用者 (1日)	10.2	11.6	10.8	8.9	9.6	10.9	11.5	12.7	11.2	9.5	8.3	9.1	124.7





※ 入居稼働率とは本入居、短期入所生活介護を含めた稼働率のことである。（100%で 97 床満床）

・ 10月は退去者及び入院された方が非常に多く見られたため、稼働率が低下した。2月はインフルエンザの感染が多く見られたため、本入居、短期入所を自主的に見合わせた結果、稼働率が低下した。（利用者の感染拡大防止）それ以外の月に関してはほぼ 99%以上の入居稼働率を維持できた。

上記の結果、平成 25 年度の年間入居稼働率は 99.19%となった。

平成25年度 介護老人保険施設 聖十字ハイツ 事業報告書

I. 基本方針及び事業目標

医療と介護の役割分担と連携強化を図り、重度の要介護者や認知症の方々に医療・介護サービスを切れ目なく提供し、介護予防・重度化予防に取り組むとともに、地域の要介護者の中核拠点として、通所リハビリテーション・ショートステイ・入居等でリハビリテーションサービスを包括的に提供し、高齢者ができる限り住み慣れた地域で日常生活が営むことができるような支援を行うことを目標とし、以下の取り組みを実施した。

II. 平成25年度の主な取り組み内容

1. 利用者が安心され満足されるサービスの実施と残存機能を維持向上させる取り組み

1) 認知症ケアでは「利用者の話をじっくり聞く」取り組みを進め、日常の中での生活感覚を呼び起こす取り組みとして、園芸・学習療法等を実施した。

2) 理学療法士・作業療法士を中心に分析・評価を行い利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったリハビリテーションを実施し、ADLの向上を目指した。

基本動作訓練の内容・・・寝返り訓練・起き上がり訓練・座位訓練・立ち上がり訓練・立位・バランス訓練・移動・移乗時訓練・歩行訓練

治療中訓練内容 ……基本動作訓練・呼吸・排痰訓練・疼痛に対する訓練・失行・失認に対する訓練・耐久力増強訓練・関節可動域訓練・筋力増強訓練

3) 音楽療法士(MT)を昨年に引き続き導入し、音楽を用いたより専門的なリハビリテーション活動を実施した。

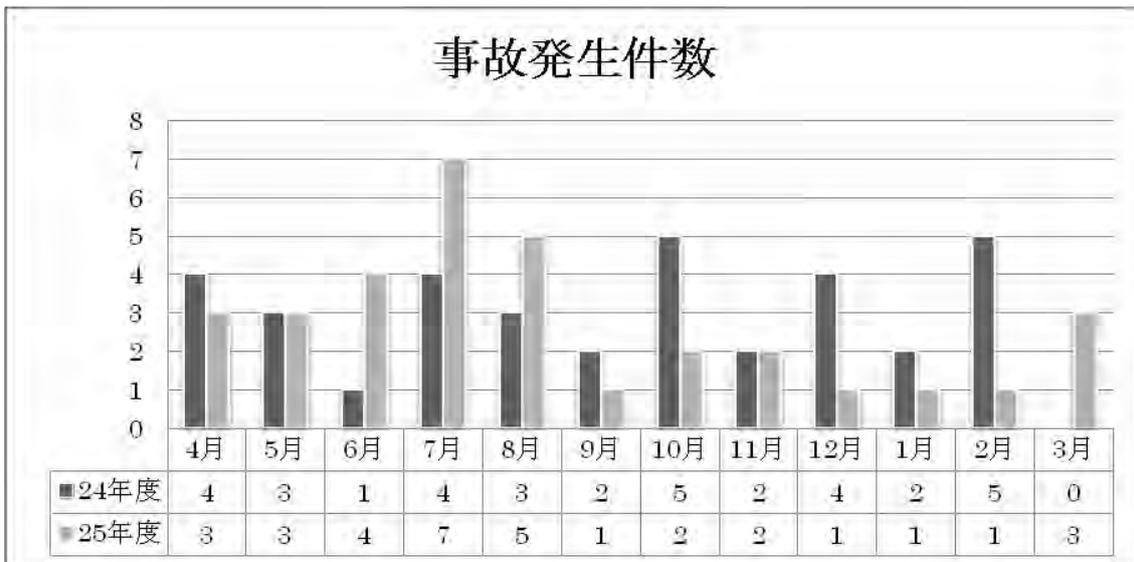
4) 作業療法士・看護、介護職員・ボランティアと連携しながら、認知症の方へのグループワーク・レクリエーション活動・リトミック等の音楽活動を行い、利用者一人

5) 嗜好調査の実施し利用者の食事形態・食事量を分析し、3ヶ月毎に利用者一人

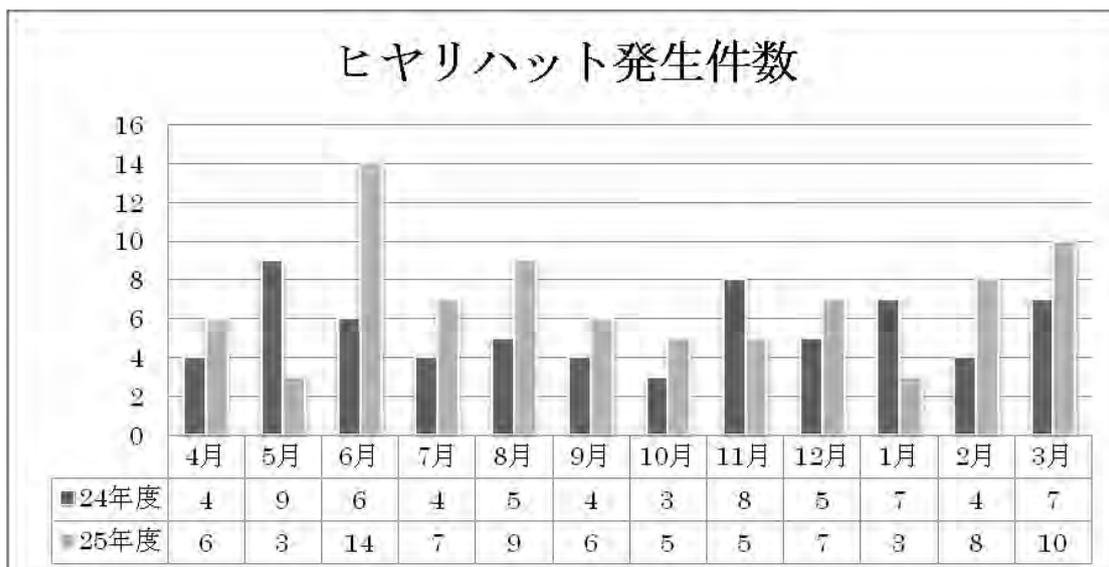
ひとりに合った栄養ケア計画を作成した。また、季節感を取り入れた食事提供と週1回以上の選択食を献立に取り入れ、食事の充実に努めた。

6) リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その中で事故事例に分析・検討を行い、事故の原因及び再発防止策を明示し、具体的な対応方法の周知徹底を図った。

資料1：【平成25年度 月間事故報告件数（事故報告）】前年比



資料2：【平成25年度 月間事故報告件数（ヒヤリハット）】前年比



2. 職員のレベルアップを図るための教育・研修

- 1) 研修計画を、利用者の実例をふまえた具体的で即利用者へ反映できるものとなるよう見直し、その計画に沿って研修を実施・参加した。
 - ・職員研修の実施状況

資料3：【外部研修】

研修日	内容	対象者
H25年6月13日	第1回 菰野町地域在宅医療・介護ネットワーク研修会	看護師
H25年8月3日	看護実践セミナー	看護師
H25年9月11日	バリデーションワーカーコース研修	作業療法士
H25年10月17日	第2回 菰野町地域在宅医療・介護ネットワーク研修会	看護師
H25年11月3日	バリデーションワーカーコース研修	作業療法士
H25年12月15日	関西バリデーション研究会	作業療法士
H26年1月20日	看護職研修会	看護師
H26年1月23日	バリデーションワーカーコース	作業療法士
H26年1月23・24日	介護職員等によるたんの吸引等のための研修	介護職員
H26年3月16日	関西バリデーション研究会	作業療法士

3. 快適な施設環境の維持

- 1) 利用者満足度アンケートを8月に実施した。アンケート結果を客観的に把握するため満足度を数値化（不満1点・やや不満2点・普通3点・やや満足4点・満足5点）し、記述式意見欄も設けた。アンケートの結果は、施設利用者・ご家族・職員が閲覧できるよう各フロアに掲示した。また、利用者・ご家族の要望・苦情に関しては改善計画を作成し早急な対応に取り組んだ。
- 2) また、インフラストラクチャーチェック・防災非難設備の自主チェックを毎月実

- 施し、施設の老朽部分の保守・修理を行った。
- ・入居者満足度アンケートについて

【満足度アンケート（入居）】

前年度までは「ご利用者のご家族様」に対してアンケートを送付・回収していた。しかし「利用者満足度アンケート」という観点からこれを変更し、聖十字ハイツ入居者の内、認知症等がなくお声を聞かせていただける方に対して直接アンケートを行うこととした。

1. 対象者：平成 25 年 8 月 1 日においてご入居されている利用者様の内、回答していただける方（認知症がない、またはは軽度の方）
2. 回答者数：12 名/99 名
3. 実施日：平成 25 年 8 月
4. 各項目について 5 点満点での採点とその他の聞き取り

資料 5：【アンケート結果（入居）】

- ① 「職員の態度や言葉遣いについて」
平均点：3.85
- ② 「職員の介護についての技術や知識に対して」
平均点：3.99
- ③ 「施設での日常生活について」
平均点：3.92
- ④ 「入居中に受けた介護サービス（身体介護）について」
平均点：3.68
- ⑤ 「食事について」
平均点：3.96
- ⑥ 「医療について」
平均点：3.88
- ⑦ 「施設内環境について」
平均点：3.97
- ⑧ 「食堂、廊下、階段などのスペースについて」
平均点：3.56
- ⑨ 「トイレや浴室の環境について」
平均点：3.61
- ⑩ 「その他の設備や安全・快適さの確保について」
平均点：3.78
- ⑪ 「総合的な満足度」
平均点：4.08

【満足度アンケート（通所）】

通所に関してはご家族からの反応も大きいため、前年度と同じ形式でのアンケートを行った。

1. 対象者：平成 25 年 8 月 1 日においてご入居されている利用者様の内、回答していただける方
2. 回答者数：37 名（回収率 54%）
3. 実施日：平成 25 年 8 月
4. 各項目について 5 点満点での採点とその他の聞き取り

資料 5：【アンケート結果（通所）】

- ① 「利用申し込み時の職員の説明に対する満足度」
平均点：3.94
- ② 「利用の手続きや利用時の説明に対する満足度」
平均点：3.90
- ③ 「施設内でのサービス内容についての説明」
平均点：4.16
- ④ 「職員の態度や言葉遣い」
平均点：4.02
- ⑤ 「職員の介護についての技術や知識」
平均点：3.78
- ⑥ 「入居中に受けた介護サービス（身体介護）について」
平均点：4.02
- ⑦ 「食事について」
平均点：3.81
- ⑧ 「医療について」
平均点：4.26
- ⑨ 「施設内環境について」
平均点：4.19
- ⑩ 「食堂、廊下、階段などのスペースについて」
平均点：4.25
- ⑪ 「トイレや浴室の環境について」
平均点：4.37
- ⑫ 「その他の設備や安全・快適さの確保について」
平均点：4.46
- ⑬ 「総合的な満足度」
平均点：4.21

4. 地域との交流

地域交流やボランティア体験・実習を以下のように実施した。

1. インターンシップ（7～8月：就労体験）
2. 運動会（10月：園児・地域住民・老人会との交流）
3. 常磐中学校（11月：福祉体験学習）
4. 聖十字看護専門学校（1～3月：老年看護学実習）

※敬老祝賀会（9月：家族との交流）は台風のため中止

※メリノール女学院高等学校（3月：ボランティア体験）はインフルエンザまん延のため、中止

5. 広報活動

利用者に聖十字ハイツの理解を深めていただけるよう、施設での行事やレクリエーション風景や職員紹介を写真やイラストを取り入れながら機関誌「もみの木」を

年3回（5月・9月・1月）に発行した。

平成25年度 ケアハウス 白百合ハイツ 事業報告書

I 施設運営の基本方針

利用者の意思及び人格を尊重し、常にその方の立場に立った、人間性に満ちた必要なサービスを提供することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようにすることを目指した。また、利用者の方々が「白百合ハイツ」に入居したことを満足に思える環境を整えることを心掛け、サービス向上に取り組むこととした。

II 具体的な事業計画

1 自立した生活を継続できるよう適切なサービスの提供

個別性と主体性を尊重し、利用者との関わり合いの中から今後の課題が明らかになった。また、介護予防に重点を置き、生活リハビリと理学療法士のリハビリに取り組んでいただけるよう支援を行った。

2 健康状態を把握し、精神面の相談援助・サービスの充実

緊急時に使用するナースコールについて、作動確認を実際に利用者の方に体験していただいた。また同時に居室内の設備状態の確認を行い、正しい使用方法の説明を行う事で利用者の安心につなげることができた。毎月実施しているインフラストラクチャーチェックリストに基づき各フロアの点検・改修を行った。

3 地域交流を通じて施設の社会化を推進する

社会福祉協議会やコミュニティセンターで実施される講座や行事についてお知らせを行い、参加できるように努めた。また、ボランティアによる演奏会の実施も定期的に行った。

4 趣味活動や教養活動を支援する

利用者の方と職員が話し合う機会を設けて自由に意見交換を行った。新しく入居された方も多く、利用者間の交流を深めることができた。

5 リスクマネジメントの強化

苦情報告から共有部分に関することは、即時対応を行い改善につなげることができた。今後も継続的に実施できるよう取り組んでいく。

6 職員の資質向上

外部で実施される研修について積極的に参加する傾向がみられた。特に新会計基準への変更に伴う研修へ参加することで施設間の交流も行う事ができた。

また、全国老人福祉施設協議会で実施される研修を中心に参加を行い、基本的なケアと専門性の向上を図った。

7 安心して生活できる住環境の整備・改善を行う

開設から意見交換会の中から生活環境の改善点について挙げた内容から共同浴室の脱衣場に手すりを2か所設置し、浴槽内のクリーニングを実施した。

Ⅲ 入居者の生きがい、仲間づくりまた介護予防のための下記の内容を実施した。

(1) リハビリ訓練（実施時期：毎週土曜日）

利用者の身体機能の低下を防止することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようにするため、リラックス運動やゴム・竹などを使った「リハビリ訓練」を実施。定期的な体力測定により、リハビリ効果を実感され、参加人数も上期より増加した。

(2) 白百合喫茶（実施時期：毎月1回）

利用者間の交流の機会を促進することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようになり、居室の閉じこもりを防ぐ効果もあった。くつろげる空間を創り、体操やゲームを実施して入居者の方々に参加を促した。

生活の質の向上のためにも利用者の方の要望に応じた創作活動や文化活動を多く取り入れて活動を行った。ボランティア来園による演奏会は入居者だけでなく他施設の入居者の参加していただき交流ができた。

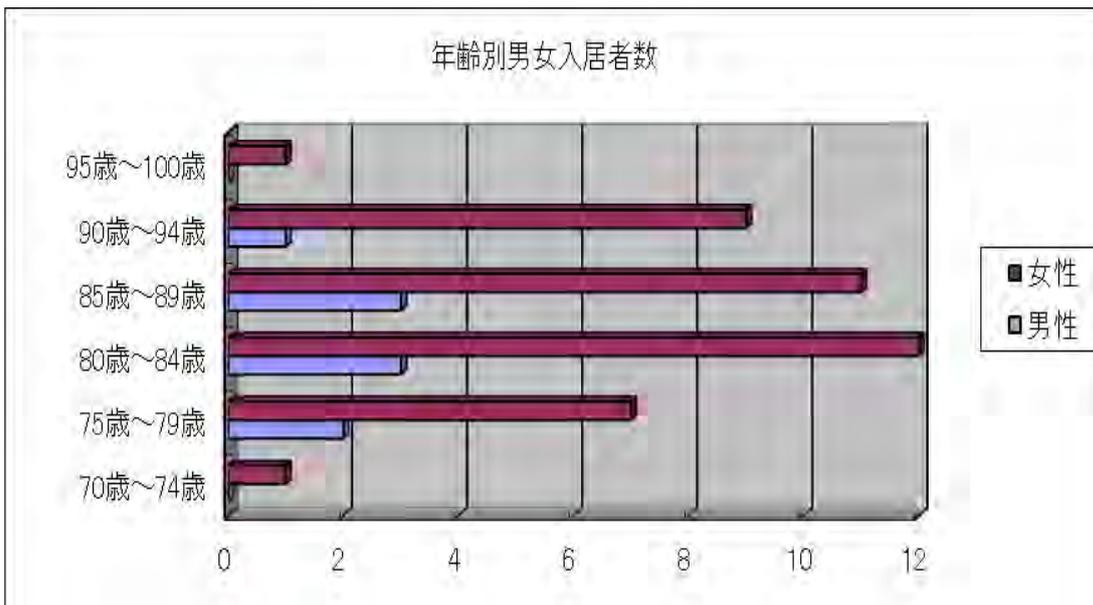
IV資料

年齢別男女

平成 25 年 3 月末時点

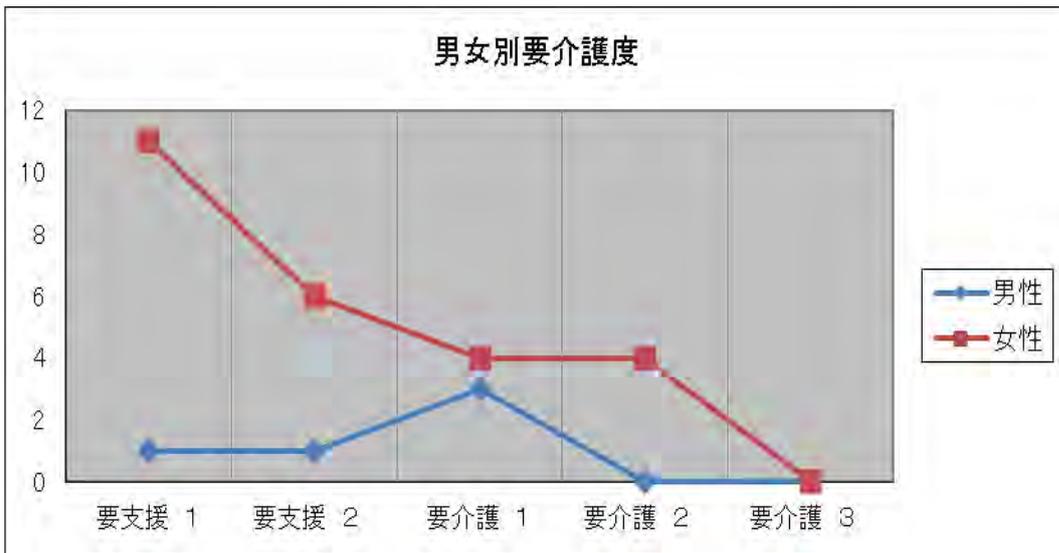
入居者数

	70 歳～ 74 歳	75 歳～ 79 歳	80 歳～ 84 歳	85 歳～ 89 歳	90 歳～ 94 歳	95 歳～ 100 歳	合計
男性	0	2	3	3	1	0	9
女性	1	7	12	11	9	1	41
合計	1	9	15	14	10	1	50



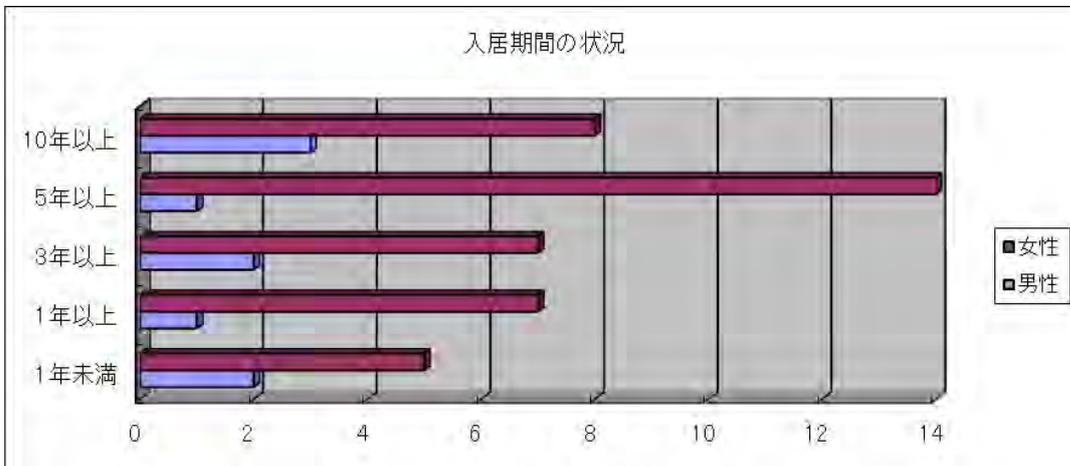
男女別要介護度 平成 25 年 3 月末時点

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	合計
男性	1	1	3	0	0	5
女性	11	6	4	4	0	25
合計	12	7	7	4	0	30



入居期間の状況 平成 25 年 3 月末時点

	1 年未満	1 年以上	3 年以上	5 年以上	10 年以上	合計
男性	2	1	2	1	3	9
女性	5	7	7	14	8	41
合計	7	8	9	15	11	50



平成25年度
 聖マリアこども園
 事業報告書

こども園の基本方針 . . . 神様によって与えられた命、一人ひとりの思いを尊重しながら、豊かな人格の基礎をつくるために、恵まれた環境を備え心身ともに健やかな成長を見守り支援し援助する。

事業目標 . . . 小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供することによって、地域において子どもが健やかに育成される環境を整えるといった地域の幅広いニーズに応えられるようにする。
 家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切に、安心して過ごせる環境と質の高い保育・教育により子どもたちの育ちを保障していく。

月	事業内容 (行事)	行事目標 (経験していくこと)	ねらい (子どもの育ち)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式 ・新しいお友だちとあそぼう会 ・内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園を喜び、明るく元気に登園し、園生活が楽しいと感じる。 ・異年齢の子どもたちと関わり楽しくあそぶ。 ・日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりの中で、相手の立場を理解し思いやりの心が育った。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身に付いた。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・元気っ子の集い ・野菜の植付け ・春の遠足 ・自然の中であそぶ ・個人懇談会 ・尿、蛭虫検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児と共にあそび、協調することの大切さを知る。 ・身近な植物を知り、親しみ土に触れて野菜の苗付けを楽しむ。 ・身近な自然に触れて戸外であそぶことを楽しむ。 ・身近な自然に触れて十分にあそぶ。 ・体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としてのきまりが分かり、友だちとのつながりを広め一緒に活動することを楽しんだ。 ・自然に目を向け、植物の成長の不思議さに気づいた。 ・春の自然に気づき関心を持って見たり触れたりして、豊かな心情を育った。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。

6	花の日 (聖十字の家訪問) 保育参観 温泉水プールあそび	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情を持って生活する。 ・保護者の人と子ども園で楽しいひと時を過ごす。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や花に対する愛情を持ち、人権を大切にする心が育った。 ・園での生活を保護者に見てもらいながら、楽しく過ごす中にもがらんばる気持ちが持てた。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能が発達した。
7	七夕会 どろんこあそび 歯科検診 温泉水プールあそび 納涼会(聖十字の家との交流会)	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや思ったこと、想像したことなど色々な方法で自由に表現する。お話の世界を楽しむ。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持つ。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しむ。 ・友だちとの関わりの中で、協調性を養い進んで友だちとあそぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕伝説に関心を持ち、様々な体験を通して豊かな感性を育った。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。 ・周りの友だちに対する親しみを深め、集団の中で自己主張し、人の立場を考えながら行動することが少し分かった。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。
8	温泉水プールあそび どろんこまつり	<ul style="list-style-type: none"> ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。
9	防災訓練 敬老の日(聖十字の家訪問) 年長組社会見学 (町内5歳児とともに東山動物園)	<ul style="list-style-type: none"> ・火事や地震、不審者対策をなぜ繰り返して行っていくかを聞き、その重要性を感じる。 ・自分たちとの生活との関係に気づき生活経験を広める。 ・集団行動の大切さを十分味わい、クラスや町内の5歳児とともに社会見学を楽しむ。 ・いろいろな動物に興味・関心を持つ動物を愛し優しさを養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起こった時のことを考えて正しく行動しようとする姿が見られた。 ・人との関わりの中で信頼感や愛情を持ち、人権を大切にする心が育った。 ・集団行動の楽しさを十分に味わい、共通の行事に参加し、仲間と協調したりする態度が身に付くきっかけとなった。
11	秋の子どもまつり (収穫感謝祭) バルーン体験 自然の中であそぶ 特別保育自由参観	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い経験することによって想像性と創造性を伸ばす。 ・晩秋の自然に触れ秋の実に感謝する。 ・自分たちの生活に気づき生活経験を広める。 ・自然との触れ合いの中で発見や感動、驚きながら季節の移り変わりの様子や美しさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して、豊かな感性を育った。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動することができた。 ・体験を通して、大自然の中にいる自分に少し気付いた。

12	クリスマス会 クリスマスパーティ (聖十字の家訪問)	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの意味を知る。 ・様々な表現活動を通して、想像性と創造性を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さに対する感覚を豊かにする力が育った
1	新年のご挨拶 (聖十字の家訪問) お正月あそび もちつき大会 給食自由参観	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始の伝統的な行事に関心を持つ。 ・身近な言葉やあそびに親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。 ・日本の伝統あそびを親しむ中で文字や数字などに興味を持つ。 ・普段の給食風景を保護者の人に見てもらい楽しいひと時を過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で言葉への興味や関心を育った。 ・人との関わりの中でいろいろな人たちにお世話になっていることを知った。 ・身の回りに様々な人がいることを知り関わり大切さ、楽しさを味わった。 ・食育に対する意識を深め、生きる力を養った。
2	節分会 歯科検診 交通安全指導 冬の自然を見て歩く 保育参観 特別保育自由参観	<ul style="list-style-type: none"> ・節分や鬼に関する絵本や話を見聞きし、異年齢で楽しい集いに参加する。 ・日常生活に必要な健康安全など、基本的な習慣や態度を養う。 ・早春に向かう自然の変化に気づく。 ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり見たり、触れたりして興味・関心を広げた。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持った。 ・交通安全に必要な基本的な習慣、態度を身につけ、そのわけを知って行動することができた。 ・冬から春への季節の変化に気づき自然の恵みを感じた。 ・何事にも興味を持って取り組み知識・意欲・態度を育った。
3	特別保育自由参観 ひなまつり会 お別れ会 春の自然を探してあそぶ 個人懇談会 終了式 卒園式	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げる。 ・人との関わりの中で人に対する愛情と信頼感を持ち、人権を大切にすることを育てる。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。 ・進学、進級への期待を膨らませ、進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情をもって生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも興味を持って取り組み知識・意欲・態度が育った。 ・様々な体験を通して、豊かな感性を育った。 ・集団生活の楽しさを味わい、仲間と協力する態度を身につけた。 ・くつろいだ雰囲気の中で様々な体験し、豊かな感性が育った。

- ★誕生会・・・・・・・・毎月第3木曜日（4月、8月は第4木曜日）
7月は七夕会、3月はひなまつり会と一緒にいった。
- ★身体測定・・・・・・・・4，7，10，1月 月末月または、火曜日
体重測定・・・・・・・・毎月末月または、火曜日
頭囲測定・・・・・・・・7，1月、視力検査・・・・・・・・（3歳児以上） 2月
- ★礼拝・・・・・・・・毎月第2、4月曜日 ★避難訓練・・・・・・・・毎月末月曜日
- ★その他・・・・・・・・年長組は毎月調理実習及び、講師による特別保育として、英語、リトミック、お茶会、陶芸などを体験した。
年中組は調理実習を7回程度行い、特別保育として10月よりリトミックを体験した。

病後児保育事業

目 的

病気の回復期または怪我の回復期と判断された児童（幼児）を保護者が何らかの理由（勤務、疾病、出産、家族の介護など）で保育をすることが困難な場合、保護者に代わり病後児保育室で保育する。

利用日： 月曜日～金曜日（土、日、祭日及び12月29日～1日3日を除く）
 開園時間：午前8時30分～午後5時30分（保護者の希望により変更有）
 利用期間；1回の利用につき7日間まで
 利用料金：一人につき1日1,000円（給食費別300円徴収）

平成25年度「病後児保育事業委託契約」について

平成25年4月6日に、菰野町子ども家庭課「病後児保育事業」担当の谷氏と聖マリアこども園の小山の両者にて「病後児保育事業委託契約書」を交わす。

*平成25年度

登録者数

4月	6名	11月	0名
5月	4名	1月	1名
6月	3名	2月	1名
7月	0名	3月	1名
9月	0名	合 計	16名

利用者数

4月	1名	8月	1名
5月	3名	11月	1名
6月	2名	2月	2名
7月	2名		
合 計			12名

*病後児保育室開設3年目迎え、利用者の数は前年度からあまり増えてはいないが、幼稚園や保育園にポスターを配布したり地域の情報誌に掲載してもらうことにより病後児保育存在は周知してもらうきっかけとなった。ポスターや情報誌を見て登録に来られた方も数名あり、機会があれば利用したいとお仕事を持つ保護者にとって心強いという声も聞こえてくる。今年度は11月に10人の利用はあったが最終的に利用人数は12人というのが平成25年度の実績である。

*病後児といえ、個室にて利用児童の静養、また在園児との接触や同じフロアーの利用は避けた方が良いとの看護師からの助言を受け個室のみで過ごすようにした。

子育て支援事業

目的 : 子育て相談や親子の集いの場を提供し、保護者への支援を通して子育ての力の向上を支援する。

実施内容 : 毎週火曜日 10:00～11:30 子育て支援保育（あそびプログラム作成）
 月～金曜日 午前中 園庭開放
 毎月最終土曜日 9:30～11:30 親子クッキング
 夏季温泉水あそび 10:00～11:00 子育て支援保育
 （7月中旬～8月末までお盆を除く平日）

活動内容 : 4月～3月 毎週火曜日 あそびプログラム
 毎月最終火曜日：誕生会(誕生児は手形をとり手作りカード渡す)

あそびプログラム内容

・玩具制作、身体測定、手・触れ合いあそび、在園児とあそぼう、誕生会、園行時参加

*こいのぼりバッグ	*ひも通し	*絵合わせパズル
*水あそび玩具(輪投げ・プカプ金魚)	*ヨーヨー	*8の字風車
*どんぐりマラカス	*手型ツリー	*鬼お面
		*紙皿ひなまつり



◎毎月最終土曜日：親子クッキング（5月～3月・12月は除く）

*今年度より給食メニューも取り入れ、旬を感じ、簡単に作れるおやつ作りを取り入れた。

*ずんだまんじゅう	*メロンパン	*高野豆腐の卵とじ	*ごまきなコストック
*豆腐きなこ団子	*かぼちゃポーロ	*鬼まんじゅう	*ひなまつりクレープ

*今年度よりこども園「在園児とあそぼう会」を取り入れ、0～5歳児までの各クラスと年間を通して交流し、異年齢とふれあう事を目的としたあそびの場を設けた。

◎行事参加：夏祭り・盆踊り大会(7月)、交流運動会(10月)参加。

◎年2回親子リトミック開催。(講師 廣瀬ふさえ先生) (10月・12月)

7月に保護者対象にミニビューティーレッスン(講師を招き)開催。

平成25年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター
通所介護 事業報告書

I. 事業内容

- (1) 通所介護事業 (定員 30名)
- (2) 介護予防通所介護事業

2. 施設サービスの目的

地域で生活される要支援・要介護の高齢者の方々に対して通所介護サービスを提供し、ご利用者の社会的孤立感の解消および生活機能の維持・向上を図るとともに、ご家庭で介護される方の負担軽減を図ることを目的として、利用される皆様にご満足いただけるサービスの提供に努めた。

3. 通所介護サービス

(1) サービス内容

送迎 健康管理 入浴 排泄 食事 おやつ リハビリ体操 レ
クリエーション 理髪 (月1回)

(2) レクリエーション活動

毎日実施するレクリエーションでは、新規のメニューを増やすとともに、レ
ギュラーメニューを毎日アレンジして計画的に実施した。

- ・脳トレ ・カップカーリング ・フリスビー ・ホッケー ・射的 ・箱倒し
- ・ダーツ ・サイコロゲーム ・タオル投げ ・風船投げ ・缶けり

(3) ボランティア

下記の内容のボランティアの受け入れを行い、利用者サービスの向上にご協力い
ただいた。

- ① 歌と体操 (リズムメイト：四日市ボランティア)
- ② 大正琴 (四日市シルバー人材センター)
- ③ 大正琴 (サルビア)
- ④ ハンドケア (山下久美子様)
- ⑤ 職場体験ボランティア (日本福祉大学：山下記代香様)
- ⑥ 清掃作業 (保々中学校3年生)
- ⑦ 千羽鶴贈呈 (保々地区社会福祉協議会・保々小学校3年生81名)

(4) 年間行事

4月 「花見」	10月 「コスモス見学」「焼き芋」
5月 「ドライブ」	11月 「ホットケーキ」「焼き芋」
6月 「あじさい」	12月 「クリスマス会」
7月 「七夕祭り」	1月 「書き初め」「ホットケーキ」
8月 「かき氷」	2月 「節分」 豆まき
9月 「クレープ作り」	3月 「たこ焼き会」

(5) 食事・おやつを提供

栄養摂取に配慮しながら、季節の食材を取り入れ、おいしい食事の提供に努めた。
また、適宜「手作りおやつ」を提供し、ご利用者の皆様に喜んでいただいた。
さらに市販の菓子を購入・日替わりで提供した。

(6) サービス向上のための取り組み

毎月、デイサービス会議（業務改善会議）を実施した。

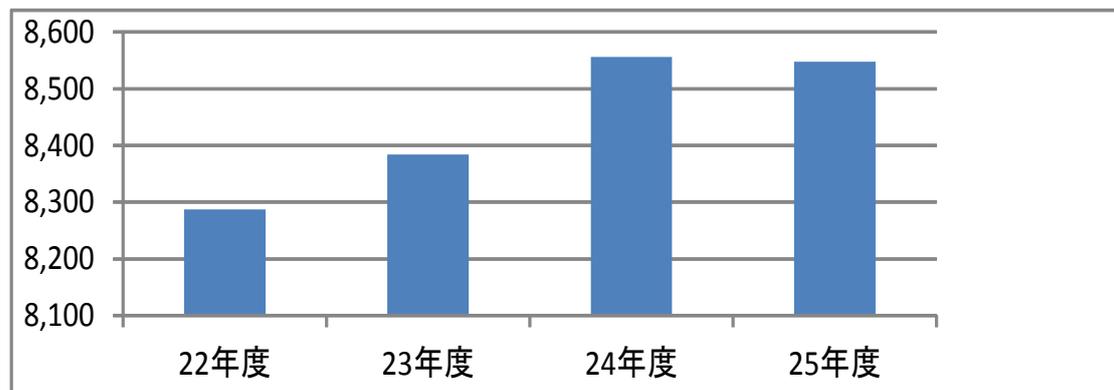
4. 通所介護利用状況

(1) 年間延利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	559	597	583	677	641	579	654	557	544	534	518	544	6,987
予防通所介護	128	139	150	132	120	119	130	131	124	116	133	139	1,561
計	687	736	733	809	761	698	784	688	668	650	651	683	8,548

年間延利用者数 推移



(2) 年間実利用者数

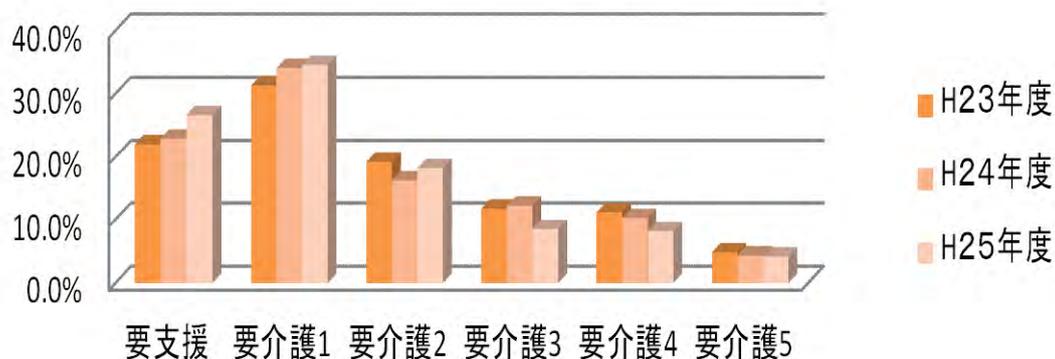
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	49	46	49	51	51	50	49	48	45	47	44	44	573
予防通所介護	15	17	17	16	16	17	17	19	18	18	19	19	208
計	64	63	66	67	67	67	66	67	63	65	63	63	781

(3) 平成25年度・年間介護度（構成割合）

介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
実利用者内訳	208	270	142	66	63	32	781
構成割合	26.6%	34.6%	18.2%	8.5%	8.1%	4.1%	100%

年度構成比較



5. 職員研修の状況

職員の資質向上を図るため、各種の職員研修に参加した。

7/18 平成25年度 給食施設従事者研修会

「食中毒予防のための研修会」（四日市市保健所主催）

11/20 感染症対策研修会 四日市保健所

3/29 人権研修（人権プラザ小牧 伊藤館長講義） 12名

平成25年度
 聖十字保々在宅介護サービスセンター
 在宅介護支援センター 事業報告書

1. 事業内容

- (1) 在宅介護相談事業 (四日市市委託事業)
- (2) 訪問給食事業 (同上)

2. 事業の目的

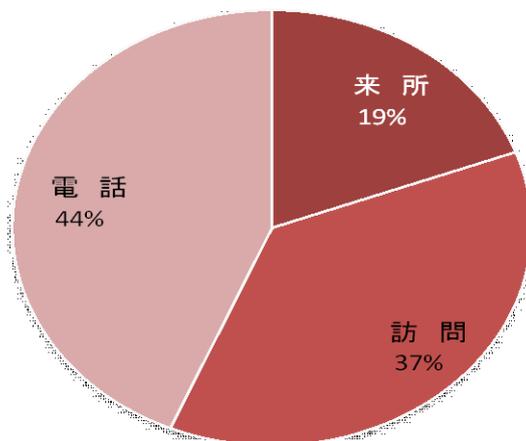
四日市市の委託を受け、地域の福祉相談窓口として、訪問・電話による相談業務を実施した。また、地域の高齢者の実態把握に努めるとともに、地域の1人暮らし高齢者の方々への見守りをするため訪問給食を実施した。

3. 相談業務の実施状況

- (1) 高齢者関係

	本人	家族	その他	合計
来所	21件	52件	10件	83件
訪問	88件	69件	2件	159件
電話	31件	90件	66件	187件
合計	140件	211件	78件	429件

相談内訳



- (2) 障害関係
なし

4. 介護予防教室実施状況

介護予防教室

① 年間 8回開催

(9/23 市場町・10/8 西村上条・10/23 西村町・11/11 小牧北・11/19 小牧南
11/23 中野町・12/11 西村新田・12/11 小牧西)

5. 地域との連携

(1) 地区民生委員連絡会議に出席

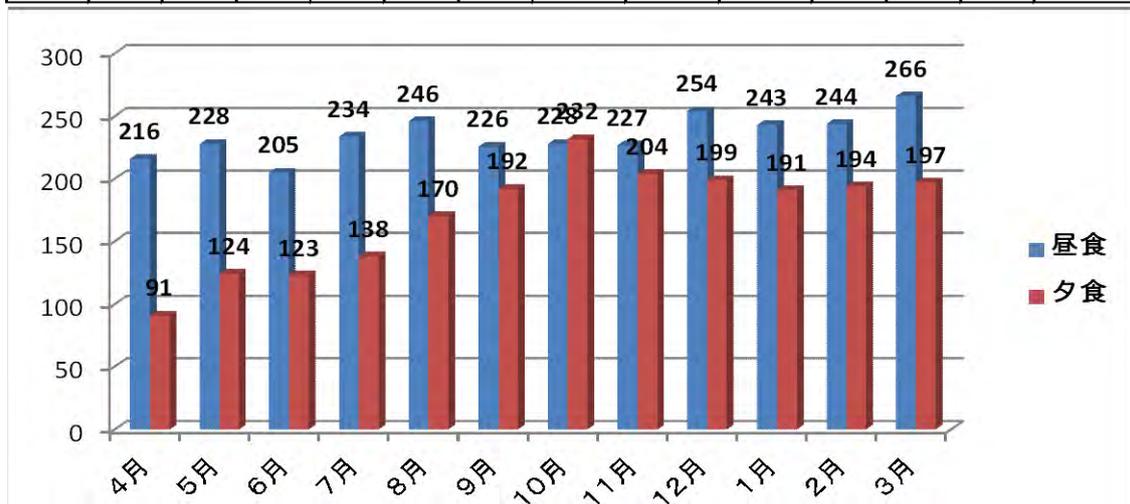
① 年間 12回出席

(2) 「人権プラザ小牧」との情報交換

① 年間 7回訪問

6. 訪問給食実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼食	216	228	205	234	246	226	228	227	254	243	244	266	2,817
夕食	91	124	123	138	170	192	232	204	199	191	194	197	2,055
計	307	352	328	372	416	418	460	431	453	434	438	463	4,872



訪問給食は、昨年度に比べ、年間 1502 食分増加した。

7. 在宅介護支援センター運営会議の開催

- (1) 実施日 平成 25 年 6 月 19 日
- (2) 出席者 四日市市役所介護高齢福祉課
 〃 健康づくり課
 四日市市社会福祉協議会
 地区社協会長
 地区民生委員会会長 及び 副会長
 地区老人会会長
 連合自治会会長
 人権プラザ小牧館長
 市民センター館長
 四日市市北地域包括センター
 当施設管理者・担当者

8. 地域行事への参加

- ① 人権プラザ小牧運営協議会 (年間 3 回) 6/10・9/25・3/25
- ② 敬老慰安会 9/16
- ③ 小牧地区文化祭 10/27
- ④ 80 歳以上の高齢者の皆さんとひとり暮らしの皆さんとの集い 10/28
- ⑤ 保々地区文化祭 11/3

9. 認知症サポーター養成講座 開催

今年度は、地域の方へ「認知症を知ろう」と題し、認知症サポーター養成講座を開催した。

6 月 13 日 保々地区社会福祉協議会・福祉協力員 56 名 (保々地区市民センター)

10. 平成 25 年度「よっかいち・はつらつ健康塾！」

本年度 10 月より、四日市市健康づくり課主催「よっかいち・はつらつ健康塾」が、当地区では北地域包括支援センターと在宅介護支援センターで行うこととなり、地域のおおむね 65 歳以上の方を対象に 6 回の講座を行った。

場所：四日市市保々地区市民センター

10/22 「ウォーキング」12 名 ・11/26 「在宅介護支援センターより」9 名
12/24 「低栄養」9 名 ・1/28 「転倒予防」9 名 ・2/25 「口腔機能」9 名
3/25 「認知症予防」12 名

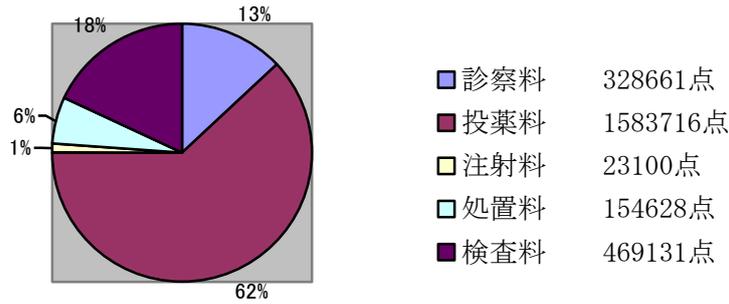
11.研修等実施状況

- 5月17日 第1回四日市市北地域医療介護ネットワーク会議勉強会
「低所得者の支援について」
講師：四日市市介護・高齢福祉課 水谷暢孝氏
- 8月24日 第2回四日市市北地域医療介護ネットワーク会議勉強会
「脳卒中について」
講師：長谷川脳神経外科クリニック 長谷川浩一 Dr.
- 2月25日 三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会職員研修
- 3月25日 内部研修：平成25年度「人権研修」（うわさと差別）
講師：人権プラザ小牧 伊藤館長
- 以 上

平成25年度
菰野聖十字の家診療所
事業報告書

I. 日常診療

ケアハウス、入居者、通所利用者、職員の診療を行った。



II. 予防医学療法の推進

1. 特定健康診査（長寿医療健康診査）7月～10月に実施…21名
ケアハウスの入居者を対象に実施。
今回の結果をもとにし、今後の健康維持のために助言や指導を行った。

2. インフルエンザ予防接種の実施

特 養	81 名
障 害	59 名
ケアハウス	36 名
デイサービス	8 名
職 員	204 名
合 計	388 名

3. 肩凝り体操

日常生活の中で、あまり全身を動かすことの少ない方々に対して、体操を含めた全身運動をしていただき ADL 保持に寄与した。今年度はボールを使用したストレッチなど取り入れた。さらに、コーラス、指先を使った製作活動を通してコミュニケーションの活性化に努めた。参加者 1 回 10～15 名

4. 肺炎球菌予防接種の実施

新入居者など希望者のみ 17 名に行った。

5. 麻疹風疹予防接種の実施

風疹の流行に対応し、抗体検査及び希望者のみに予防接種を行った。

平成25年度 三重聖十字病院 事業報告書

I 事業内容

疼痛緩和医療事業 緩和ケア病棟での入院医療 25床
外来治療事業 精神科、内科、心療内科、神経科、神経内科、緩和ケア外来

II 平成25年度の重点事業内容

- 1 チームワーク医療の充実を図り医療の質向上を目指す
北勢地区唯一の緩和ケア病院として、当法人の理念および基本的緩和ケア指針を全職員に徹底し、チームワーク医療を根幹とする緩和ケア理念の定着に務めた。
- 2 リスク管理の強化を図る
医療安全管理委員会を強化し誤薬、転倒転落などの事故防止・再発防止に努めた。また、施設管理、防災対策などあらゆるリスク管理を強化すると共にコンプライアンスの徹底を図った。
- 3 緩和ケア外来および栄養管理の充実を図る
緩和ケア外来患者延数は510名（前年551名）と41名の減。また、各部門の協力により安定した栄養管理が実現できた。
- 4 職員のレベルアップ
医師・看護師・MSW・栄養士・事務員など種々の職種が参加するケースカンファレンスを開催、また、緩和ケア医療に有益な外部研修にも積極的に参加、職員のレベルアップを図った。
- 5 医療報酬制度に即した医療体制の確立を図る
大幅な診療報酬の改定による制度の変化に対して、常に情報を収集し、柔軟かつ敏感に対応できるよう努めた。
- 6 医療・看護体制の整備
常勤医師1名及び新たな非常勤医師により常勤換算では4.98名となった。常勤看護師については21名を確保、非常勤を含めて常勤換算23.89名となり体制の充実を図った。

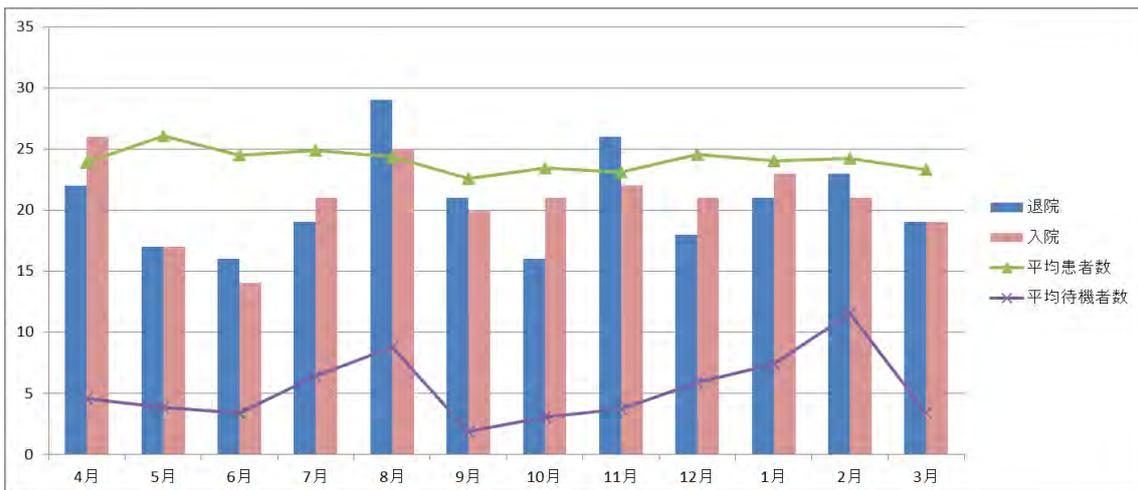
7 環境及び施設の整備を進める

開院以来9年目を迎え、医療機器及び設備用機器の整備に努めた。
また、玄関前に障害者用駐車場を含む駐車場を設置した。

8 経営の安定化を図る

開院以来の延べ入院患者数は1,638名となった。25年度の一日当たり平均入院患者数は24.07名。その結果、経常利益39百万円であった。

平成25年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
退院	22	17	16	19	29	21	16	26	18	21	23	19	20.6	247
入院	26	17	14	21	25	20	21	22	21	23	21	19	20.8	250
平均患者数	23.87	26.06	24.5	24.87	24.32	22.6	23.45	23.1	24.55	24	24.25	23.32	24.1	
平均待機者数	4.53	3.87	3.4	6.42	8.74	1.87	3.06	3.73	5.9	7.36	11.5	3.39	5.31	
在宅退院	1	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0.5	6
外来から入院	6	8	5	5	8	3	5	4	5	2	2	3	4.67	56
延べ入院	716	808	735	771	754	678	727	693	761	744	679	723	732	8789



9 広報活動の強化及びボランティアなどの体制整備を進める

登録ボランティア49名。ボランティアの積極的な参加の推進を行った。
各種行事等の内容としては、月1回の家族会、年2回の遺族会、利用者とのティータイムなども定着、季節ごとのイベント(節分の豆まきなど)を含めて110回のイベントを実施した。

平成25年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター
居宅介護支援事業 事業報告書

1. 事業内容

(1) 居宅介護支援事業

2. 事業の目的

ご利用者が、その方らしくご自宅で過ごせるために、ご本人・ご家族と相談しながら、毎月1回の訪問・モニタリング・アセスメントの実施を行い、ご本人の状況に合わせた、望まれる最良のサービスの構築・展開を図った。

また、ご本人、ご家族からの依頼により要介護認定の申請代行をおこなうとともに、ご本人、ご家族共にご満足いただけるケアプランの作成を行った。

他の事業者との連携を緊密に図るため、サービス担当者会議を行った。

3. 研修実施状況

(1) 四日市市介護保険サービス事業者連絡会居宅介護支援部会（1名出席）

4月23日・6月19日・8月20日・10月22日・12月24日・2月21日

(2) 介護支援専門員現任研修 1名

平成25年度介護支援専門員資質向上研修（専門研修課程Ⅰ）

(6/16・7/7・7/15・8/4)

(3) 5月17日 第1回四日市市北地域医療介護ネットワーク会議勉強会

「低所得者の支援について」

講師：四日市市介護・高齢福祉課 水谷暢孝氏

8月24日 第2回四日市市北地域医療介護ネットワーク会議勉強会

「脳卒中について」

講師：長谷川脳神経外科クリニック 長谷川浩一 Dr.

3月25日 内部研修：平成25年度「人権研修」（うわさと差別）

講師：人権プラザ小牧 伊藤館長

4. 年間介護認定代行申請者数 (新規、更新、変更)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	2	4	5	2	4	2
女性	4	3	5	9	5	3
計	6	7	10	11	9	5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	3	1	2	1	2	2	30
女性	9	8	5	5	4	4	64
計	12	9	7	6	6	6	94

5. 居宅サービス計画 (ケアプラン) 実績

新規利用者の受入れを積極的に行い、年間延べ利用者数は836人となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	23	22	25	24	23	23
女性	48	47	48	50	49	47
計	71	69	73	74	72	70

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	26	25	25	26	25	23	290
女性	48	46	43	41	41	38	546
計	74	71	68	67	66	61	836

